

貝塚市立  
中央公民館

# 目 次

◆年間総括	中 1
◆講座・事業	
□ 青少年対象事業	中 8
レッツTRY事業（中高生の活動支援）	
貝塚少年少女合唱団	
夏の子ども講座（幼児・小学生・中学生対象の講座）	
□ 子育て支援事業	中 12
赤ちゃんルーム（0歳児を持つ親や妊婦の交流の場）	
保育つき講座 おや子教室	
□ 成人対象事業	中 15
NEW つるかめ大学（おおむね65歳以上の方対象の講座）	
イージーステップ	
～音楽によってリズムを体験しよう～＜高齢介護課共催講座＞	
ノルディックウォークで外へでかけよう＜高齢介護課共催講座＞	
いすヨガ＜高齢介護課共催講座＞	
ダイエットボクササイズ	
認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ＜高齢介護課共催講座＞	
ノートパソコン入門講座・追加講座	
俺の公民館	
□ 共生課題事業	中 25
夢にチャレンジ（心身に障がいのある方対象の講座）	
ホッとワーク（視覚に障がいのある方対象の講座）	
ふれあい料理（心身に障がいのある方対象の講座）	
介護について語り合う場	
多様な介護者（ケアラー）の課題と支援	
日本語会話よみかき教室（日本語学習支援講座）	
韓国のこと知ってる？	
□ 文化振興事業	中 36
クラシックコンサート・ジャズライブ・春一番コンサート・	
ピアノリレー	
元気がでるミニコンサート	
□ 人材養成事業	中 42
遊び隊（あそび隊・折り紙グループ）	
保育ボランティア	
日本語会話よみかき教室ボランティア	
ふれあい料理ボランティア	
□ 地域連携事業	中 47
第66回中央公民館まつり	
ロビー活用	
地域出前講座	
移動公民館「健康サロン」	
ほかでもがんばっているよ	
□ 団体支援事業	中 54
中央公民館クラブ協議会	
貝塚学習グループ連絡会	
貝塚ファミリー劇場	
貝塚子育てネットワークの会	
文化団体	

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

# 令和4年度 中央公民館 事業総括

## はじめに

令和元年度から続く新型コロナウイルス感染症の流行は、今だ収束が見通せない状況が続いている。しかし、社会的に行動制限が徐々に緩和される方向で推移する中、今年度は、昨年度、一昨年度のような公民館の臨時休館措置や開館時間短縮措置は行わず、依然、人数制限などの制約はあるものの、講座や事業を概ね当初の計画通りに実施することができた。公民館の利用者数や部屋の稼働率もコロナ前の水準まで回復しつつある。

このような状況下での今年度の取組みについて、令和4年度貝塚公民館事業方針に基づき定められた重点目標に沿って、事業別に状況・成果・課題をまとめた。

## 1. 公民館主催事業

- ・市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、社会教育への理解を深める取組みを進め、市民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。
- ・公民館が実施する各事業・講座の中に、SDGs（持続可能な開発目標）及び人権の視点を取り入れていく。

### <状況・成果>

- ・今年度も利用者の協力を得て、マスクの着用や検温、「ヘルスチェックシート」の提出、使用後の部屋の消毒などコロナの感染対策を徹底した結果、年間を通じて集団感染を発生させることなく中央公民館の講座・事業を運営できた。
- ・新規利用者の開拓を図るため、勤労者の参加を考えた平日夜間講座、また、土日での文化事業・講座を開催した。
- ・青少年対象事業・子育て支援事業・障がい者が参加する事業などで「クラブ協議会」「貝塚子育てネットワークの会」をはじめとする支援団体・ボランティアの協力を得て事業を展開した。
- ・市発信の広報紙・ホームページ・フェイスブック・ラインにより事業の周知・報告に努めた。

### <課題>

- ・庁内の各課、他の社会教育施設、自主活動団体など連携し、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの発掘、及び、学習成果の共有に努める。
- ・SDGsが市民の身近な課題であることがわかるよう、公民館が実施する講座・事業が、SDGsが掲げる目標の実現と関わりがあることを積極的にアピールしていく。
- ・あらゆる事業を通じて、オンラインの活用を一層推進していく。

### ① 青少年対象事業

- ・青少年がいきいきと地域で活躍し、健全に成長することをねらい、近隣小中学校との連携による事業及び異世代間交流機会の拡大をめざす。
- ・レッツ TRY の登録団体である中学生及び高校生の自主性を高め、現在活動のある音楽・ダンス以外の分野にも広げる。
- ・コロナ禍でも貝塚少年少女合唱団が発表機会を最大限持つよう活動を支援する。

### <状況・成果>

- ・レッツ TRY 事業では、コスモシアターで行う学校のイベントの際に、高校生にチラシを配布したり声をかけるなどして、公民館でグループ活動ができることを宣伝した。
- ・「夏の子ども講座」は、コロナのため今年度も受講人数を制限しての開催となったが、クラブなど12団体の協力により、昨年開催できなかった共催講座「キッズキッチン」を含め12講座を実施し、延べ247人の子どもたちが参加した。また、今年度は、講座の様子を伝える「壁新聞」を学校教育課の協力を得て小学校のタブレットに配信し、講座のPRに努めた。
- ・貝塚少年少女合唱団は、新規団員の獲得に向け積極的に発表の場に参加した。水間観音駅で開催された「水間夕涼み会」に出演した際、歌を聞いた子どもたち3人が合唱団に興味を持ち、夏の子ども講座に参加し、新規入団につながった。

### <課題>

- ・ICTを活用した小中学校向けデジタルコンテンツの配信。
- ・公民館が勉強や音楽、ダンスなど青少年が様々な活動ができる場であることを知ってもらう。

- ・貝塚少年少女合唱団の新規団員の獲得。

## ② 子育て支援事業

- ・コロナ禍でも親子が安心して講座に参加できるよう対策し、子育て中の保護者同士の交流や情報発信の場を提供していく。
- ・父親や家族が参加できる事業・講座にも取り組む。
- ・地域ぐるみでの子育てを推進するため、子育てに関係する各課とも連携し、子育て支援活動の地域への拡大をめざす。

### <状況・成果>

- ・「赤ちゃんルーム」は、今年度もコロナ対策として毎回最大8組程度の事前申込制とした。子育ての悩みに対する「貝塚子育てネットワークの会」の協力スタッフの的確なアドバイスや講座プログラムの工夫などにより、受講者同士及び受講者と協力スタッフとのつながりができた。
- ・昨年、コロナによる休館のため開催できなかった「保育つき講座 おや子教室」を開催することができた。講座のテーマが受講者の悩みに合致したこともあり、出席率が高く充実した講座となった。

### <課題>

- ・コロナ禍での講座開催方法や対策に留意しながら、子育て中の保護者同士の交流や情報発信の場を提供していく。
- ・「赤ちゃんルーム」は新規受講者が入りやすくなるような工夫が必要。

## ③ 成人対象事業

- ・様々な成人の興味・関心に沿ったテーマを取り上げ、講座の参加者を増やしていく。
- ・若い世代をひきつけ魅力のある講座を継続して取り組む。
- ・講座終了受講者に対しクラブ化を勧めるなど、自主学习グループの形成につなげる。
- ・高齢介護課をはじめとする関係行政機関と連携し、アクティブシニア層が地域とつながる意欲を高める講座を実施する。
- ・受講者の主体的参画と活動を促進し、社会貢献につながる学習の機会を創出する。
- ・若年層・勤労者・高齢者など、普段、公民館に足を運びにくい市民が参加できるよう、オンラインを活用した講座、開催日時を工夫した講座、地域出前講座などに取り組む。
- ・SDGsをテーマとする講座に取り組む。

### <状況・成果>

- ・高齢者を対象とした講座「New つるかめ大学」は、8人の新規受講者を迎え交流を深めるとともに、貧困や生きづらさ、戦争など現代社会が抱える課題について学んだ。また、オンラインを通じて岡山市立西大寺公民館の「シニア大学」と交流することができた。
- ・高齢者の健康増進および介護予防の取組みとして、「ノルディックウォークで外へ出かけよう」「認知症予防にもなるスマホでいきいきライフ」「いすヨガ」を高齢介護課との共催講座として実施した。ノルディックウォークでは、講座でできた有志のグループに新たに3人が加わった。
- ・今年度も若年層や働く世代をターゲットとし、平日夜間の時間帯に「イージーステップ～音楽ののってリズムを体験しよう～」「ダイエットボクササイズ」「俺の公民館」を企画した。広報を見て興味を持ち、初めて公民館に来た参加者も多かった。
- ・既存の「コスモスパソコンクラブ」の存続支援と、市民からの講座の要望に応えるため、「ノートパソコン入門講座」を急遽実施し13名が受講した。受講者の希望により追加の講座も実施した。

### <課題>

- ・「教養講座」など、若年層や勤労者の興味・関心を引く講座を開拓していく。
- ・「まちのすぐれもの」登録者の講師活用。
- ・公民館が主催する講座からいかにして自主グループの形成につなげていくか。

## ④ 共生課題事業

- ・障がい者対象講座を通じて、障がい者の社会参加を支援し、かつ、障がい者とボランティアとの交流により、互いが成長できる場を創出していく。
- ・外国人技能実習生を含む海外からの移住者増加に伴い、「日本語会話よみかき教室」への需要が高まる中、支援者の増員を図り、かいづか国際交流協会（KAIFA）などの関係機関とのさらなる連携を進める。
- ・日本語学習にとどまらず、利用者・市民との異文化理解・交流など公民館活動に即した取組みを進める。

### <状況・成果>

- ・「日本語会話よみかき教室」は、様々な国籍の新規受講者が加わり、慣れない土地で生活している在

住外国人にとって情報交換の場であるとともに、交流と憩いの場にもなっている。

- ・「夢にチャレンジ」「ふれあい料理」では、ボランティアと交流しながら活動することにより、受講している障がい者にとって施設だけでは得られない経験ができる場、達成感が得られる場になっている。また、講座にかかわる全ての人にとっても共生社会づくりへの理解を深める機会となっている。
- ・視覚に障害のある人を対象とする講座「ホッとワーク」は、英会話、料理づくり、体操、「ろうの花」の作成や川柳など様々な講座を実施し、受講者にとって貴重な学びの場になっている。
- ・「介護について語り合う場」は、実際に介護をしている参加者と高齢者施設などで傾聴活動を行うボランティアグループ「そよ風」の有志参加者が、それぞれの経験に基づいて意見を交わし、互いに新たな気づきを得ている。

#### <課題>

- ・コロナ禍における受講者との関わりの維持。
- ・「介護について語り合う場」については、学びの場から支援活動にどうつなげていくか。
- ・共生社会づくりに関わる課題を広く取り組む。

### ⑤ 文化振興事業

- ・身近に多様な芸術・文化にふれる機会を創出し、文化を通して生活にうらおいと安らぎを与えられるまちづくりをめざす。
- ・コロナ禍でも子どもの文化を育む公民館育成団体が十分に活動できるよう支援していく。

#### <状況・成果>

- ・今年度もコロナ対策を徹底し、クラシックコンサート、ジャズライブ、春一番コンサートなど音楽文化の発信を行った。いずれも満員となり、会場の外で演奏を聴く人も出たが、キャンセルや途中退室があったため、最終的には全員が会場で生の演奏を堪能できた。
- ・公民館を拠点に日ごろ活動する団体の発表の場として「元気がでるミニコンサート」を開催。コロナ禍で生の演奏に触れる機会が少なくなっている中、沖縄三線、ウクレレなどの演奏を参加者も一体となって楽しむことができた。
- ・「ピアノリレー」では、自分のピアノの演奏だけではなく、参加者同士が互いの演奏を聞き、拍手を送りあえるつながりが生まれている。また、貝塚少年少女合唱団の発表の機会としてのミニコンサートも定着してきた。
- ・貝塚ファミリー劇場の活動を支援することで、他課とともに子どもたちの文化振興に寄与することができた。

#### <課題>

- ・各イベントについて広報を工夫することにより認知度を上げる。
- ・音楽以外の芸術・文化にふれる機会の創出。

## 2. 人材養成事業

- ・公民館での学びをきっかけとして、地域課題を解決するため地域で活躍する人が育つことをめざす。
- ・各ボランティア活動グループの自主性を育み、他の利用者や多くの市民とつながり互いに支え合う関係を広げる。
- ・各ボランティア活動への支援と連携の強化を図り、各ボランティアの新たな協力者の発掘と育成を進める。

#### <状況・成果>

- ・昨年度は、コロナのため「保育つき講座 おや子教室」が開催できず、「保育ボランティア」も活動できなかったが、今年度は2年振りに顔を合わせ活動ができた。おや子教室の元受講者1人が保育ボランティアの姿を見て、「自分も活動したい」と新たにボランティアに加わった。
- ・「ふれあい料理ボランティア」「日本語会話よみかき教室ボランティア」とも、ボランティアが受講者に親身になって関わり、理解しようとする姿が見られ、そのことがボランティア自身のやりがいにもつながっている。
- ・「ふれあい料理ボランティア」では、広報を見て参加した2人がボランティアを体験した。
- ・あそびボランティア「遊び隊」の活動は、コロナによる自粛の影響で活動機会が激減していたが、徐々に戻りつつある。高齢化のため脱会者が出た一方で、募集のチラシや口コミで知った2人が新たに隊員に加わり、熱心に活動している。

#### <課題>

- ・各ボランティアのスキルアップ。
- ・ボランティアの高齢化と新規ボランティアの加入及び活動への定着。
- ・ボランティアグループの運営体制づくり

### 3. 地域連携事業

- ・「公民館まつり」を通して、広く地域の人々に公民館活動を知ってもらう。
- ・市民が各々住む地域に関心を持ち、地域コミュニティの活性化につながる講座を展開する。
- ・地域課題の解決に向け活躍できる人材の発掘と養成をめざすため、近隣町会との接点を探り、地域との連携を深め、移動公民館のさらなる進展を図る。

#### <状況・成果>

- ・3年ぶりに屋内で開催した「中央公民館まつり」は、準備段階から実行委員会においてコロナ禍での開催のあり方について議論を深めた。当日は、2日間で延べ2600人の参加があり、久々の発表の機会に舞台、展示、模擬店とも活気にあふれ、地域交流のイベントにふさわしいまつりとなった。
- ・移動公民館は、「出前講座」を窪田シャルマンフジ自治会で、「健康サロン」を加神、東山、窪田など6町会で実施し、地域とのつながりを持つことができた。町会連合会や老人クラブ連合会の会議に出向き宣伝したが、問い合わせはあるものの、新規依頼にはつながっていない。
- ・ロビーは、三館利用者連絡会展示交流活動を含めた公民館クラブ・団体が創る作品発表の場であるとともに、読書や受験勉強、打ち合わせなど様々な用途で地域の市民に活用されているとともに、市民のコミュニケーションの場ともなっている。

#### <課題>

- ・コロナの行動制限が緩和される中で、「中央公民館まつり」の開催のあり方。
- ・移動公民館の開催にあたり新しい地域を開拓していく。
- ・地域連携事業におけるオンラインの活用。

### 4. 団体支援事業

- ・新規クラブ員獲得による公民館クラブの担い手の確保と活性化に向け支援する。
- ・公民館活動から培われる市民グループの活動やコロナの影響を受けた文化団体の活動を支援し、各団体の地域交流貢献活動を促進する。
- ・市民企画講座をきっかけとする新たな学習グループの発足を促し、学習グループ連絡会の活性化を図る。

#### <状況・成果>

- ・「中央公民館クラブ協議会」は、担当職員のサポートの下、レクリエーション部会による「ボウリング大会」の開催、地域担当研修部会による「にっこり展」の開催、広報部会による「泉のほどり」「どらせな」の作成などの活動を通じて会員の相互交流を図ることができた。
- ・「学習グループ連絡会」は活動が縮小しつつあったが、所属の2グループが合同で活動について話し合いの場を持ち、「コスモス市民講座」を活用して学習会を行った。
- ・「貝塚ファミリー劇場」は、独自に新たなコロナ対策を考え、3年ぶりに野外で“こども市”を開催するなど、自主性を発揮した。
- ・「貝塚子育てネットワークの会」には、綿密な支援により各部会の開催や公民館との共催講座を実施し、地域における子育て支援の活性化に取り組んだ。
- ・各文化団体のイベントは、コロナのため規模の縮小、会場の変更などの影響を受けつつも、概ね開催することができた。しかし、活動が停滞したことによる各団体の会員減少が顕著である。

#### <課題>

- ・担い手が不足しつつある中で、どのように活動を継承していくのか。
- ・新規クラブ員の獲得による公民館クラブの活性化。
- ・公民館支援団体の自主的活動の推進を図る。
- ・コロナの影響を受けた各文化団体の活動の立て直し。
- ・市民企画講座の開催による団体学習の促進に努める。
- ・学習グループ連絡会の活性化と新たな学習グループを連絡会につなげていく支援。

《主催講座・事業・共催事業》

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数	
青少年対象事業	レッツ TRY 事業 (登録数)		通年	—	—	
	少年少女合唱団・定期演奏会	140 人	9/11	1 回	140 人	
	夏の子ども講座	夏休み絵手紙体験		7/23	1 回	10 人
		だんじりを作ろう		7/23	1 回	23 人
		みんなで楽しく歌いましょう		7/24・7/31・8/7	3 回	10 人
		コラーージュをしてみよう！		7/25	1 回	16 人
		キッズキッチン(1日だけ選んでね)		7/25・7/28・7/31・8/6	4 回	45 人
		お琴を弾いてみよう！！		7/28	1 回	16 人
		つげさん手話教室		7/29	1 回	14 人
		お茶を楽しむ		7/30	1 回	10 人
		インスタ映えするフルーツ寒天パフェ作り		7/30・8/20	1 回	48 人
		派手に踊りまろう！		8/8	1 回	12 人
		折り紙と不思議なカードに挑戦しよう		8/18	1 回	17 組
		支援事業 子育て	赤ちゃんルーム	24 組	4/11～3/27	22 回
保育つき講座「おや子教室」			7 組	9/6～10/25	8 回	44 組
成人対象事業	New つるかめ大学 (前期)	77 人	4/11～7/11	13 回	732 人	
	New つるかめ大学 (後期)	76 人	9/5～12/16	13 回	611 人	
	いすヨガ (高齢介護課共催講座)	15 人	6/3～7/8	5 回	68 人	
	ノルディックウォークで外にでかけよう (高齢介護課共催講座)	13 人	6/13～7/4	3 回	21 人	
	認知症予防にもなるスマホでいきいきライフ (高齢介護課共催講座)	10 人	11/29～12/13	3 回	24 人	
	ダイエットボクササイズ	12 人	9/15～10/27	4 回	39 人	
	ノートパソコン入門講座	13 人	11/21～12/19	5 回	74 人	
	ノートパソコン入門講座 (追加)	16 人	1/23～3/20	5 回	69 人	
	イーリーステップ	12 人	6/14～7/5	4 回	33 人	
	俺の公民館Ⅱ	10 人	3/10～3/24	3 回	16 人	

共生課題事業	日本語会話よみかき教室	42人	4/4～3/28	105回	421人
	韓国のこと知ってる？ ～韓国文化&家庭料理を聞いて、見て、味わって！～	13人	9/6～9/13	2回	25人
	夢にチャレンジ	15人	4/16～3/18	11回	64人
	ホッとワーク	11人	5/24～3/28	10回	61人
	ふれあい料理	22人	4/22～3/24	11回	223人
	介護について語り合う場	28人	4/25～2/27	6回	57人
	多様な介護者（ケアラー）の課題と支援 ～ヤングケアラー・ダブルケアラー・男性介護者～	12人	10/29	1回	12人
文化振興事業	クラシックコンサート	49人	11/20	1回	49人
	ジャズライブ	50人	1/15	1回	50人
	春一番コンサート	55人	3/19	1回	55人
	GWピアノリレー ※注1	45人	5/1	1回	45人
	七夕ピアノリレー	51人	7/3	1回	51人
	X'masピアノリレー	59人	12/18	1回	59人
	ひなまつりピアノリレー	62人	3/5	1回	62人
	元気がでるミニコンサート 沖縄三線コンサート	28人	6/26	1回	28人
	元気がでるミニコンサート 親子で楽しむコンサート	14人	8/21	1回	14人
	元気がでるミニコンサート ウクレレコンサート	35人	9/25	1回	35人
人材養成事業	遊び隊	18人	5/5～2/5	24回	885人
	保育ボランティア	15人	6/14～10/25	10回	72人
	日本語会話よみかきボランティア	22人	4/4～3/28	105回	412人
	ふれあい料理ボランティア	16人	4/22～3/24	11回	154人
地域連携	第66回中央公民館まつり		5/21・5/22	1回	2559人
	ロビーの活用		通年	—	—
	地域出前講座	16人	8/28	1回	16人
	移動公民館「健康サロン」		9/9～3/26	10回	136人
団体支援事業	ファミリー劇場・例会		5/15～1/22	4回	403人
	ファミリー劇場・子ども市		10/30	1回	323人

団体支援事業	ファミリー劇場・共催事業「World Yo-Yo Entertainment」事前交流会と鑑賞会		6/26	1回	150人
	貝塚市軽音楽連盟・ライトミュージックコンサート		2/19	1回	100人
	貝塚市民踊連盟・市民踊まつり		5/8	1回	100人
	貝塚市クラシック音楽家協会・クラシックコンサート		5/15	1回	200人
	貝塚市美術協会・貝塚市美術協会展		9/17、9/18	1回	250人
	貝塚市美術協会・小作品展		1/14～1/29	1回	—
	貝塚市日本民謡連合会・民謡フェスティバル		11/13	1回	126人
	貝塚市合唱連盟・合唱フェスティバル		12/11	1回	392人
	クラブ協議会・レクリエーション		9/21	1回	75人
	にっこり展（障がい者施設合同作品展示）		9/5～9/18	—	—
	クラブ協議会・研修会		3/12	1回	57人
	プレーパーク		春の巻(2022年)・GWの巻・夏の巻・秋の巻	4回	1443人
	乳幼児部会共催講座「みんなで育てる仲間の輪」		5/12～12/1	3回	98人
	園児部会共催講座「Happy Life Smile～私らしく～」		5/24～1/29	3回	84人
	小学生部会共催講座「子育ての引出しを増やそう！」		5/26～12/8	3回	114人
	中高生部会共催講座「思春期をのりきる！！」		5/30～11/21	5回	80人
	貝塚子育てネットワークの会・全体研修会		10/7	1回	54人
三館連携事業	しゃべり場★公民館		4/20～3/20	20回	335人
	保育ボランティア養成講座	6人	2/7、2/14	2回	11人
	第11回貝塚公民館大会	121人	2/26	1回	121人

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または、1回限りの事業（参加者数）は「延べ参加人数」欄に記載）、ボランティアにおいては「登録人数」

## レッツ TRY 事業

### <ねらい>

青少年(主に)中高生の活動を行う上で必要な場の提供。

活動全般を支援することで、自主性を高める。

公民館に若者を呼び込む。

### <状況・成果>

新規登録8組

#### 登録グループ名

(Vai a vero・たかいし・ワンクルー・やっつけられんうさぎ・ひまわり・MIM・eight・プリセスパリーナイ  
♡)

レッツ TRY この事業の周知を図るために、コスモシアターなどを利用する近隣の高校に当日、会場でのチラシ配布を直接依頼した。また、学校イベント終了後、放課後に集まる学生に声をかけ事業宣伝を行った。

今年度の登録団体数は 8 団体で、ダンスグループとコーラスグループの登録となった。しかし登録に至る大半のグループは公民館クラブ講師からの声掛け、館内、館外での職員からの声掛けであった。その中で今回の新規登録のグループのメンバーより、グループ活動の場が学校にない、また学校には活動希望のクラブがないなどの話を聞く機会があった。

本来は青少年の活動全般を支援することが本事業の主旨であるが、過去にレッツ TRY 事業そのものの是非を含めて議論されたこともあった。

しかし、青少年を取り巻く状況、主に放課後活動は、昨今、教育現場で議論されている学校クラブの在り方などまた趣味の多様化など公民館として図り知れないことが多いのかもしれない。

この事業を見つめ直すと圧倒的に新規登録が増える現状ではないと考えて、本事業のねらいである青少年に「場の提供」が出来ることを伝えることが重要ではと考える。

青少年と公民館のつながりを作り、学校ではなかなか体験できない、世代間交流や様々な価値観を知ることなどで視野を広げることなど公民館として伝えたいことはあるが、青少年の活動時間など他の事業とのマッチングも出来ていない状況である。

ロビーで勉強する学生・コスモシアター周辺で集まるダンスグループなどに根気よく声を掛けて公民館は行きやすい、利用しやすい場所であることを伝えていきたい。

### <課題>

青少年のニーズを知る。

青少年を取り巻く状況を知る。

## 貝塚少年少女合唱団

### <ねらい>

年長、小中学生を対象に、合唱練習や発表を通じて青少年の健全育成をはかる。  
活動を通して本市及び地域における音楽文化の発展につなげる。  
育成会（保護者会）の自主活動の支援を行う。

### <状況・成果>

4/10～ / 62回(練習及び行事) 指導者4人、団員15人(男子2人・女子13人)

今年度の貝塚少年少女合唱団の活動は4/10から開始した。毎年、4月最初の活動日は「入団式」を行っていたが、コロナの影響もあり新規入団者はなく、「進級式」として、各団員が今年の活動について心を新たにすする会となった。

貝塚少年少女合唱団では、今年度で多くの団員が卒業してしまうことから、団員増加が急務となっている。そのため、少しでも多くの人に貝塚少年少女合唱団についてPRするために、積極的に多くの活動の場を見つけて参加するようにした。

5月の公民館まつりへの参加を始めとして、ファミリー劇場例会や季節ごとのピアノリレーに毎回ゲストとして参加し、ミニコンサートを行っている。特にクリスマスピアノリレーでは青少年センター職員のエレクトーン演奏とのコラボでクリスマスソングを披露した。

そのような中、水間鉄道株式会社から、7/23(土)に水間観音駅で開催される「水間夕涼み会」にゲスト出演してくれないかとの依頼があり、喜んで参加を承諾することにした。当日は18時から駅のカフェ兼待合室前にて歌を披露し、夕涼み会の参加者が足を止めて子どもたちの歌に聞き入っていた。

今年の夏の子ども講座にも協力し、「みんなで楽しく歌いましょう」と題した講座を開催したが、講座参加者の中には「水間夕涼み会」での歌を聞いて興味を持ってくれた子ども3人もおり、新規入団に結びついた。

ほかにも10/26(水)のクリケット国際大会前夜祭や12/24(土)大阪桐蔭学園高等学校吹奏楽団のクリスマスコンサートにもゲスト出演するなど、大きなコンサートへのゲスト出演が相次いだ。

毎年開催している定期演奏会は、9/11(日)にコスモシアター中ホールにて開催された。昨年、一昨年はコロナ感染拡大により延期及び規模の縮小を余儀なくされていた定期演奏会であったが、今年は一般の観客にも入ってもらいほぼ通常どおりの形態で開催することができ、3年ぶりのオペレッタも披露された。

合間には夏の子ども講座参加の子どもを含めた会場の子どもたちが舞台上に上がり、団員たちと手をつないで「さんぽ」を合唱し、会場は楽しい雰囲気に包まれた。

この定期演奏会で中学3年生7人の団員が卒団した。第一部の最後には、卒団生だけで、自分たちが選曲した「サザンカ」を熱唱した。曲の合間には卒団生が一人ずつ感謝の言葉を述べていき、彼らの歌と言葉に感動して涙を流す観客の姿も多くあった。

合唱団及び育成会では、「水間夕涼み会」の参加をきっかけに新規入団者が増えたこともあり、積極的な外部への働きかけと演奏活動が重要であると認識したようだ。長く続いたコロナ禍も収束の兆しを見せかけており、公民館では今後もこうした内外演出への働きかけや宣伝などにおいて積極的に支援していきたいと考えている。

また、今年度の演奏活動の中で、合唱団員、主に中学生らが新規入団者ほか小さな子どもに声をかけ、気遣いを見せる場面が多くみられた。多くの演奏活動での経験が、団員の子どもの成長にもつながっているこ

—青少年対象事業—

とを実感させられる出来事であった。

<課題>

効果的な情報発信等周知方法を模索し、合唱団の活性化と団員の増加を図る。

日程	一年の活動内容
4/10	進級式
5/1	ゴールデンウィークピアノリレー（中央公民館）
5/21・22	公民館まつり（舞台、模擬店）
6/26	貝塚ファミリー劇場例会 「ヨーヨー世界チャンピオンがやってくる」（コスモシアター中ホール）
7/3	たなばたピアノリレー（中央公民館）
7/23	水間鉄道「夕涼み会」（水間鉄道 水間観音駅）
7/24 31. 8/7	夏の子ども講座「みんなで楽しく歌いましょう」（中央公民館）
8/21・23	第44回定期演奏会に向けた強化練習（中央公民館）
9/11	第44回定期演奏会（コスモシアター中ホール）
12/11	合唱フェスティバル（コスモシアター大ホール）
12/18	Xmas ピアノリレー（中央公民館）
12/24	大阪桐蔭高等学校吹奏楽部 サンタコンサート（エブノ泉の森ホール）
12/25	クリスマス会（中央公民館）
1/29	ミュージックプラザ（コスモシアター中ホール）
3/5	ひなまつりピアノリレー（中央公民館）



7/23 水間夕涼み会



9/11 卒団式



9/11 定期演奏会（子どもたちと一緒に）

## 夏の子ども講座

<ねらい>

夏休み期間を利用し、子どもたちが公民館で様々な体験や学習ができる場。

子どもたちが公民館クラブやボランティア、地域の大人と交流しふれあえる場。

<状況・成果>

7/23～8/20 受講者：延べ247人 12講座16枠 協力：12団体 申込総人数：418人

昨年はコロナでクラブ・団体への声掛けが遅く、職員が個別に声を掛けることで開催にこぎつけたが、今年はコロナ前と同じスケジュールで進めたので、クラブ・団体も講座企画がスムーズにはこんだ。一部のクラブではコロナの不安を抱えながらも工夫し、子どもたちを迎える準備が出来た。

昨年は開催できなかった青少年教育課と健康推進課、公民館の共催講座「キッズキッチン」は運営に向けて何度も話し合いを重ね、開催にこぎつけた。

各講座の企画が出てきた時に、昨年同様にコロナの注意や、対象年齢を広げてもらえるように依頼し、中学生が申し込める講座を増やす工夫をした。結果、昨年よりも中学生の申し込みが増え、数人が受講した。

受講の申し込みは、昨年取り入れた二次元コードと各館専用の申込用紙で行い、往復はがきは取りやめた。ほとんどが二次元コードでの申し込みであり、次年度以降も二次元コードと各館専用の申込用紙で行うことを三館で確認した。

講座の始まる7月頃には、子どもを中心にコロナが広がり、受講者の中には感染し、受講できない子どももいたが、全ての講座が開催され、たくさん子どもたちが公民館で異世代との交流、作品づくり、体験など夏休みの良い思い出を作ることが出来た。

講座のアンケートには、「みんなで作って、みんなで食べたのが楽しかった。」「この講座に来なかったら、こんな経験なかった。」「(大人が)ずっと一緒に説明しながら作ってくれたから、安心してできた。」「めったにさわることができない楽器を使って演奏するのはとてもいいとおもいました。」「全部たのしかった。」と感想が書かれていた。

一緒に参加した保護者からは「家では他の兄弟がいるため、親子二人の時間が少ないのでとても嬉しかった。」「子どもがずっと絵の具や筆を使いたがっていたのですが、なかなかさせてあげられなかったので、とても喜んでいました。」といった、感謝の文章も多く書かれていた。

一時はコロナの流行で、講座の開催の是非について、職員間で話し合うこともあったが、「どうすれば開催できるか」を考え、クラブ・団体の協力のもと、子どもたちを安全に楽しく開催することができた。

<課題> 二次元コードを使った申し込みの改良。中学生への周知。



コラージュをしてみよう！



七夕映えるフルーツ寒天作り



夏休み絵手紙体験

## 赤ちゃんルーム

### <ねらい>

0歳児をもつ親や妊婦が気軽に仲間づくりや情報収集など参加できる場。

子育ての不安を和らげるための交流の機会を設け、安心して子育てできるようにする。

### <状況・成果>

4/11～3/27 第2・第4月曜日 10時～11時半（全22回）受講者 延べ205人 スタッフ7人

24組の登録。昨年同様コロナ対策として人数制限を行い、定員は8組までとし事前申込制で開講した。

昨年度からの継続受講は1組のみで、今年度は「赤ちゃんルーム」を初めて利用する受講者が大半であった。前半の4月から5月にかけては受講者が2、3組と少なかったが、昨年度からの継続受講者が子育て支援センターで知り合った人に次々と声を掛け一緒に受講してくれ、口コミなどで受講者は徐々に増えていった。

子育て支援センターですでに顔見知りという人も多く、講座中は親子で出かける場所、離乳食の話、子どもの最近の様子など自然と話が盛り上がり、受講者どうしで情報交換している様子が見られた。時には、受講者から「思うようにはいかない子育てで子どもに怒ってしまい後で後悔する」などの悩みが本音で語られる場面もあった。それに対し、貝塚子育てネットワークの会（以下、子育てネット）のスタッフは自身の子育て経験をもとに「子育ては頑張りすぎないことが大事、いつでも気軽におしゃべりにきてね」と声掛けし、受講者にとって心強い存在になっていた。

今年度は、子育てネットのメンバーから計7人の先輩お母さんが「赤ちゃんルーム」のスタッフとして関わり、楽しく安心して受講してもらえるよう企画・運営に積極的に協力してくれている。子育てネットは「地域への子育て支援」と位置づけ、子育てには子も親も仲間が必要だということを伝え、受講者どうしがつながれるよう講座中のプログラムにも工夫を凝らしている。また、3か月に1度、情報共有を目的にスタッフミーティングを行い、担当者ごとに講座中の受講者の様子やプログラム内容を報告し合い、職員と一緒に講座内容の構成を行っている。今年度から子育てネットより2人のスタッフが新たに加わった。内1人は自身の出産を控えながらもぎりぎりまで担当に入ってくれ、出産後もすぐに復帰し受講者の気持ちに寄り添っていた。

今年度は1人目の出産で結婚を機に貝塚市に引っ越してきたという受講者が多かったため、プログラムでは受講者どうしの交流やおしゃべりの時間を大事にした。さらに、公民館のことを知ってもらうために子育て中の親子が参加できる「おや子教室」や「夏の子ども講座」「親子で楽しむミニコンサート」などの講座事業を案内し、情報提供や発信を積極的に行った。また、プログラムでは、中央公民館で活動するクラブ、団体の「人形劇あひるクラブ」、「遊び隊」に講師として来てもらい、サークルの「さくらんぼ」には子育てサークルを知ってもらう機会として協力してもらった。ある受講者からは「初めて公民館の講座事業に参加して、すごく楽しかった。また、子どもと参加できる事業があれば教えてほしい」との声が聞かれ、行く場所を求めている受講者が多いことがわかった。さらに、子育てネットの乳幼児部会の講座に積極的に参加したり、小学生部会につながった受講者もいた。講座周知においては健康推進課が実施する「ママパパ教室」で積極的に宣伝を行ったが、今年度も妊婦の受講はなかった。

### <課題>

交流と仲間作りの場の提供。

妊婦が受講できることの周知。



《プログラム》

開催日	内 容	開催日	内 容
4/11	はじめまして赤ちゃんルーム	9/26	手づくりおもちゃ
4/25	こどもの日 ～こいのぼりを作ろう～	10/24	はじめての人形劇 ～親子で楽しもう～ 【協力：人形劇あひる】
5/9	ママの日企画 ～日頃のストレスを話 してスッキリ!!～	11/14	おさんぽ ～コスモスシアター周辺をおさんぽ～
5/23	おさんぽ ～図書館へ行こう♪～	11/28	親子で楽しむ絵本紹介
6/13	パパの日企画 ～パパありがとう制作～	12/12	クリスマス ～サンタがやってくるかも～
6/27	親子でふれあいあそび♪	12/26	手作りおもちゃ 【協力：遊び隊】
7/11	水あそび	1/23	すくすく子育て応援隊が来てくれます！
7/25	水あそび	2/13	バレンタイン ～パパにプレゼント♡～
8/8	水あそび	2/27	ひなまつり ～公民館でおひなさまを見つけよう～
8/22	水あそび	3/13	子育てサークルってどんなことしてる？ 【協力：貝塚子育てネットワークの会】
9/12	赤ちゃんと一緒にリズムあそび 【協力：子育てサークルさくらんぼ】	3/27	体ほぐし ～ママのリラックスタイム♪～

## 保育つき講座 おや子教室

<ねらい>

子育ての不安解消をはかり、子育ての悩みを共有できる場とする。

子育て中の日頃のストレスやイライラをリフレッシュし、子育てに前向きに取り組める機会とする。

<状況・成果>

9/6～10/25 火曜日 10時～11時半（全8回） 受講者7組

今年度の保育つき講座は時期を6月～7月（浜手）、9月～10月（中央）、10月～11月（山手）で開催する計画を立て、コロナも少し緩和され、無事開催することができた。

三館の保育つき講座共通の内容として「HSC※繊細な子どもについて」を2回取り組み、受講者の中に今まさに悩んでいる親子もいて内容の濃い講座となった。

中央では7組の申込みがあり、内2組は近隣市からの申込みであった。もともと貝塚で住んでいたが、近隣市に引っ越し、親同士で子育ての悩みなどを話せる場がないということで受講。子育てネットワークの会共催講座や小学生部会への入会にもつながった。

公民館主催の「赤ちゃんルーム」で呼びかけたこともあり、0歳児から1歳児が大半で保育ボランティアが一人ずつ抱っこしての保育となった。

受講の動機がHSCに興味があるとのことであったが、コロナ下にもかかわらず毎回の出席率はよく、講座の内容が充実していたことが伺えた。

～感想～

・毎日の子育てで子どもと向き合っていると思っていましたが、受講したことによってもっと正面から子どもと向き合い理解や把握をしないと…とすることができました。

成長していくにつれ、どんな子に育つか現段階では分からないので、先生がおっしゃるように1つの引き出しとして知れたことが嬉しかったです。

・今日も子どもと少しの間、離れて講座聞けてすこいリフレッシュできました。「完璧じゃなくてもいい」と今まで何度か聞いたことありましたが、今日、聞いて心にひびきました。それと同時に私、疲れてるんやなと思いました。

<課題>

今後も3公民館での子育て講座開催の内容について検討していく。

アフターコロナを見据えて開催について工夫していく。

※ HSP (Highly Sensitive Person)・・・生まれつき非常に感受性が強く敏感な気質を持った人。

※ HSC (Highly Sensitive Child) は、HSP の子ども時代。



《プログラム》

	日程	内容	講師
1	9/6	はじめまして！自己紹介	相互
2	9/13	話してみよう・・・	堀 麻美 (保育ボランティア)
3	9/20	5人に1人繊細な子どもHSCってどんな子ども?&わくほめワーク①	熊川 サワコ (市民活動グループほくせつマメの木副代表)
4	9/27	5人に1人繊細な子どもHSCってどんな子ども?&わくほめワーク②	熊川 サワコ (市民活動グループほくせつマメの木副代表)
5	10/4	入園までに知っておきたいこと	すくすく子育て応援隊
6	10/11	SDGs 私たちにできること	山路 登葉
7	10/18	ヨガでリラックス	平山 公子(ヨガ講師)
8	10/25	講座まとめ	相互

## NEW つるかめ大学

<ねらい>

人生100年時代を生き抜く力を育む。持続可能な社会のありかたを考える。

### 前期

<状況・成果> 4/11～7/11 月曜日 10時～12時 (全13回) 受講者77人 (平均年齢77歳)

新規会員8人を迎え、今年もコロナが落ち着くことはなく、中ホールで第58期生の開講式を行った。開講式は69人の出席があり、受講者のつるかめ大学への期待がうかがえた。

「人生100年時代」といわれはじめ、高齢期のあり方が問われる中、自己実現に留まらず、社会への関心を高め、社会貢献や地域へのまなごしを深めるきっかけとなる学習が求められる。

前期のつるかめ大学は、子ども食堂や、子育てサークル活動など子どもの育ちや環境に目を向けるとともに、貧困や生きづらさを抱える人たちに支援する立場の人から学んだ。

話を聞くだけでは「他人ゴトから自分ゴト」へとなりにくい、同じ時代、社会に生きる1人として引き寄せられるような投げかけをしている。

折しも、2月にロシアによるウクライナ侵攻がおこり、ウクライナの子どもたちへの支援として、つるかめ大学で募金活動をしたとの動きがあった。「もし、日本が戦争になったら」「子どもたちに支援をしたい」との気持ちで動き始めたが、受講者間で十分な議論を持つことができず、一体感をもって募金活動を進めることはできなかった。有志により集まった募金はユニセフに寄付された。



前期で人気が高かった講座は、寺内町を巡ったあと、駅前にできたコワーキングスペースでお弁当を食べたことや、食事会で話ができたと、班半交流会として、ちがう班の人たちとの交流など、いろいろな人と交流し会話をすることが喜ばれた。しかし、議論となると十分な話し合いができないなど、違う意見を認め合うことや女性と男性間の意識のジェンダーギャップが見られたため、交流を深めるとともに、個々の意識が醸成されるような働きかけが今後求められる。



<課題>

誰もが平等に対話できる環境について考える。

積極的に交流の輪を広げ、いろい

ろな人と関わる。

<前期プログラム>

4/11	開講式 ウクレレ演奏	ホロホロウクレレ	6/6	健康フィールドワーク①	今岡真和
4/18	つるかめ交流カフェ		6/13	死を考える	藤田恭樹
4/25	寺内町めぐり	貝塚観光Vガイド協会	6/20	食事会 (岸和田グランドホール)	
5/2	子ども食堂から	水取博隆	6/27	健康フィールドワーク②	今岡真和
5/9	公民館の子育て支援	子育てネットの会	7/4	班半交流会	
5/16	ビデオ学習	牧野篤 (東京大学)	7/11	前期終了 落語	喜怒家哀楽
5/30	合作俳句ほか	上田假奈代 (詩人)			

## 後期

<状況・成果> 9/5 ～12/16 月曜日 10時～12時 (全13回) 受講者76人

後期テーマを「平和・憲法・対話が生きる社会を考える」とし、他者の話を聴くことと話し合うことの大切さを認識してもらうことに重点を置いた。

特に3人の受講者に戦争体験を語ってもらえたことが好評であった。引き受けてくれた3人はそろって94歳という高齢ながら、当時の空襲の様子や日々の暮らしを鮮明に記憶しており、事前にノートに書き出しまとめてくるなど念入りの準備があった。大勢を前に淡々と語る姿に胸を打つものがあり、1人ひとりの話しは短い時間ではあったが、平和について考える機会となった。

憲法学習では、弁護士による憲法の基本的な学習ではあったが、憲法ビンゴで条文を理解するなど楽しく学べて身近に感じるような工夫が成されていた。

コロナも少し落ち着き、歌を楽しむ機会や少し遠出の食事会も開催できた。加太国民休暇村は送迎のバスの乗車人数がコロナ対応で制限されており全員が同じ日に行くことができず、2日間に分けて半数ずつ参加することになった。

また、岡山市立西大寺公民館の館長からシニア大学と交流会を持ってほしいという依頼を受け、オンライン交流を行った。修了式後の金曜日という日程ではあったが、交流会に向けて班での作業やつるかめ大学の紹介、「わたしにとってのつるかめ大学」を語るなど役割があることで班の結束が強まるような取り組みとした。



前期の班半交流会が好評だったこともあり、次年度は班替えを行うという前提で後期の交流会では話し合いをしてもらった。「今のままがいい」「おまかせ」という意見も散見されたが、半数以上は班替えを希望しているということがわかり、次年度は班替えを行うこととなった。

それでも継続者が減らなかったのはおおむねつるかめ大学に満足を得られていることではないかと考えられる。

### <後期プログラム>

9/5	開講式(落語)	大阪公立大学	10/31	対話で結ぶ自治と地域	堀内秀雄
9/12	つるかめ交流カフェ	相互	11/7	食事会(加太国民休暇村)	
9/26	ドラマアワーホーム	茂野隆之	11/14	食事会( " )	
10/3	戦争体験談 貝塚市の政策	受講者 政策推進課	11/21	つるかめ交流カフェ 班半交流会	相互
10/17	うたを楽しむ	かたつむり	11/28	健康体操	高橋智子
10/24	憲法学習	小谷茂美	12/5	修了式(津軽三味線)	京極流
			12/16	岡山市西大寺公民館 シニア大学との交流	内田光俊

### <課題>

生活の困りごとや悩みを話し合え、支えあえる関係づくりをさらに強める。

高齢者の就労者が増え、後期高齢者が大半を占める中での高齢者大学の今後の在り方。

## イージーステップ～音楽にのってリズムを体験しよう～

<ねらい>

コロナで運動不足になりがちな市民に運動の場の提供。

働く世代も参加しやすい夜間の時間帯に開催。

<状況・成果>

6/14・21・28・7/5 火曜日 19時15分～20時15分 全4回 受講者12人

講師：おりい りか（ダンススクールスタジオ・タイニー）

タイトルの「ステップ」や「リズムを体験」といった言葉が難しいイメージを作り出したようで、思ったほど申し込みがなかった。

働く世代が参加しやすいように、19時15分スタートとしたところ「夜だから参加できた。」「仕事帰りでも参加できた。」という人が複数いた。

講師は毎回「今日の動きはもう忘れていいですよ。来週は違う音楽でしましょうね」と、動きや音楽も変えてくれ、欠席者も参加しやすいようなプログラムですすめてくれた。

受講者からは「足がもつれるかと思っただけだけど楽しかった」「汗がかけた」「知っている曲でうきうきした」と満足のいく講座だったようだ。4回があつという間だったようで、「もっとしたい」という人には、講師が現在担当している総合体育館での市主催のスポーツ教室で、9月スタートの講座があるため、そちらで引き続き運動できる機会があることを伝えた。たまたま総合体育館で受講している人がいて、受講者の間で休憩中に体育館の様子を聞く姿も見られた。

講座は一番広い視聴覚室を使ったが、両手を広げたりする運動では、定員は10人程度が接触する危険もなく動ける人数の限界と思われ、中央公民館での運動系講座は開催しづらいと感じた。

<課題>

働く世代への講座。

部屋の大きさへの配慮と講座内容。



## ノルディックウォークで外へ出かけよう（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

コロナによる運動不足の解消。

既存グループのメンバー増員とグループからクラブ協議会へ加入の働きかけ。

<状況・成果>

6/13・27・7/4 月曜日 13時半～15時半 全3回 受講者13人（内メンバー10人）

講師：大阪府ノルディック・ウォーク連盟南大阪支部

昨年と同じ時期に同様の講座をしたところ 23 人の受講者がいたこと、コロナで講座が途切れ途切れになり、受講者の熱も冷めたのか後半は欠席者が多かった。そこで、仕切り直しも兼ねて開催したが、申し込みは少なかった。

講師に2回、ノルディックウォークの説明、ポールの使い方・歩き方を習い、3回目は既存グループが担当し、二色の浜公園を歩いた。

初回は高齢介護課から講座の説明や、広報交流課から広報記事のための取材と、賑やかに始まった。

少ない人数だったので、講師から個別に丁寧な指導があり、既存グループのメンバーも久しぶりにフォームの修正などしてもらい、満足のいく内容だったようだ。

既存グループが担当する回は、二色の浜公園に市のマイクロバスで行き、広い公園を楽しく歩いた。熱中症の心配をしていたが、小雨がぱらつく天気で思ったよりもずっと快適に歩くことができた。メンバーと受講者は公園を一緒に歩き、グループの活動紹介をしたり、それ以外に雑談もたくさんできた。グループの良い雰囲気が伝わったのか3人が入ることとなり、互いに連絡先の交換をしていた。

既存グループの活動は、7月8月の暑い時期は休みとし、次回は9月からの活動になるので新しく参加する3人にそれがどのように影響するのか気にかかったが、グループから連絡をいれ、引き続き参加する人もいた。

グループのクラブ化は、その中心で動いていた人が病気で今回全く参加できず、持ち越しとなっている。

<課題>

グループのクラブ化。

ノルディックウォークにかわる内容の講座の検討。



## いすヨガ（高齢介護課共催事業）

<ねらい>

高齢者のフレイル（虚弱）予防、認知症予防

<状況・成果>

6/3～7/8 金曜日 13時半～15時（全5回）

講師：津田 美穂（シニアヨガインストラクター/まちのすぐれもの登録者）受講者15人

昨年度の同講座が好評であったため、今回は時間帯をかえて初めての人に受講してもらいフレイル予防に努めてもらおうと企画した。新規申込者に加え、昨年度のリピーターからも申込があり定員数を上回る事となった。抽選の結果、初心者ばかりではなかったが、逆に昨年の経験者が場の雰囲気を作ってくれて順調なスタートを切ることができた。

講座は、いすに座ったままできるので、体の硬い人や膝が痛い人にとって取り組みやすく出席率も高かった。講師がミニマットを用意しており裸足になって足のケアを行うこともできた。受講者からは「足指を触ることが気持ちよく、楽になった」との声が聞かれたり、肩や足などをほぐすだけでなく、今回は瞑想の時間も多く取り入れられていたため、心を落ち着かせ自己を見つめることで、「心がすっきりした」と語られた。

いすヨガは、覚えて帰れば自宅でもできるポーズは多いのだが、やはり一人では続かないとの声が多く、こうして仲間とともにできる場があることがありがたいとの声も聞かれた。

前年に続き今回も好評であり、いすヨガの講座から自主活動へ高めていきたいが、高齢の受講者が中心の講座は主となる人が現れず自主グループ作りはできなかった。

今回は高齢介護課との共催だったが、共催ではなく年齢の幅を広げてフレイル予防を含め、誰もが取り組める講座への機会を増やしていきたい。

<課題>

高齢者に限らず、体を動かし、心身を整える機会を設ける



### 感想

- ・いすに座ってするのは初めてで楽しかった。
- ・ヨガと名のつくのは初めて。最初は内容に戸惑ったが、回を重ねると心穏やかになれる自分に気が付いた。
- ・他の体操にはない充実したメニューでした。これから残りの人生の元気の糧にしたいです。
- ・とても居心地のよい時間と空間でした。すぐ忘れてしまってますが、いくつかは覚えていて家でもできるのでよかったです。先生のお話声が癒されました。心にすう〜っと入りました。



## ダイエットボクササイズ

<ねらい>

公民館を利用したことのない若い世代、働く世代へのアプローチ。

気軽に公民館を利用する機会をつくる。

<状況・成果>

9/15、29、10/13、27 木曜日（全4回） 19時半～20時半 受講者12人

講師 梅本 道代（NPO法人いきいき・のびのび健康づくり協会理事）

令和2年度、3年度と浜手地区公民館、中央公民館（以下、中央）でそれぞれ開催し大好評であったダイエットボクササイズを今年度は山手地区公民館（以下、山手）も含めた3館で時期をかえて開催したいと昨年度から講師と3館担当職員でスケジュール調整を行い、5月に山手をスタートとして開催した。日中、公民館に来られない若い世代や働く世代の人たちが参加しやすいよう、今年度も3館ともに夜間の19時半からの開催とした。また、初めての人に来てもらえるよう今年度、3館を通して初めて受講する人を優先で定員を超えた場合は抽選とし、定員に満たない場合のみ再受講者も可として募集を行った。中央は会場の広さの関係もあり定員を12人と設定したが、24人と倍の申し込みがあった。さらに、5月に山手で受講した数人からも再度、受講できないかと問い合わせが入るほど今年度も人気の高さがうかがえた。

今回、公民館で講座を受講するのが初めてという人も多く、母と大学生の娘との親子参加や40代の働く若手女性、男性の参加も見られた。ほとんどの人がボクササイズは初めてだったので、講師が受講者の動きや様子を見ながら、無理のないよう始まりのウォーミングアップ、終了時のストレッチまで丁寧に指導してくれた。体が温まってきたところでワン・ツー・フックやダッキング、ウェイビングといった基本的な型を習い、受講者が一通りの動きを習得したところで最初から最後まで通して軽快な音楽とリズムにのせて行った。また、一連のボクササイズには空手も得意としている講師ならではのキックの動きも取り入れた。回を重ねるごとに徐々にプログラムもレベルアップしていったが、講師が驚くぐらい受講者は上達し、フォームや動きも様になっていた。

受講者からは「オンラインで1人で運動していたが、やっぱりみんなで体を動かして汗を流すのは気持ち良いですね」と前向きな感想が聞かれた。また、受講者どうしが普段どこで運動しているかなど自然と情報共有したり、講師を交えて楽しそうに会話する場面があった。講座の合間には受講者から継続開催を望む声や夜間に受講できる講座についての質問があったため、公民館のクラブを案内したが、今回は入部へはつながらなかった。

講座終了後のアンケートより今回、6人の受講者が広報を見て内容やネーミングに惹かれ、初めて公民館の講座に足を運んでくれたことが分かった。普段、公民館を利用したことのない若い世代や男性の参加者をターゲットに来年度に向けて夜間の講座を引き続き開催できるよう、講師と調整し計画していきたい。

《アンケートより》・今回初めてボクササイズに参加させていただきました。

とても楽しくあつという間の4回でした。是非、これからも梅本先生の講座を開

いていただけたらと思います。また、参加したいです。ありがとうございました。

<課題>夜間の時間帯での講座の充実。単発講座から公民館を知ってもらい、継続的な利用につなげる。



## 認知症予防にもなるスマホでいきいきライフ（高齢介護課共催講座）

### <ねらい>

高齢者の認知症予防。身近なスマートフォンの活用を学ぶ。

### <状況・成果>

11/29・12/6・12/13 火曜日 13時半～15時 受講者10人

講師：パソコン教室「らいく」専任講師 2人

中央公民館にポケットWi-Fiが導入されたことで開催できた。

山手・浜手地区公民館は昨年も開催したが、今年度は3公民館で開催時期をずらし、初めての人を優先するように3館で調整を行った。

中央は、定員が締切前によく集まるという状況で抽選もなく希望者全員が受講できた。

講座は講師2人と担当職員の他、その時に入れる職員が随時入ってサポートに当たったが、講師からは「こちらの受講者さんたちはレベルが比較的高くて、スムーズに進めている。」とのことだった。他館では文字入力が苦手な人もいたらしく、1対1の対応を求められ人的な確保が難しい場面もあった。

受講者からは「丁寧に教えてもらえて満足です。しかし、3回では少ない、もっと教えてほしい。」「わからないことが多すぎて、奥が深い。」という声もあったが、この講座は受講者のレベルや習得したいスキルに個人差があるので、一つの目的に向かって講座を作り進めていくのは難しい。

### <課題>

講座の発展型は個人のレベルもあり難しいので、共催講座としては内容の再考が必要。



## ノートパソコン入門講座・追加講座

<ねらい>

既存のパソコンクラブへの援助。  
市民のパソコンデビューのきっかけづくり。

<状況・成果>

11/21・28・12/5・12・19 月曜日 14時～15時（全5回）受講者13人  
追加講座 1/23・2/6・20・3/6・20 曜日時間帯は同じ（全5回）受講者16人  
講師：立花 章（コスモスパソコンクラブ講師）  
協力：コスモスパソコンクラブ 3人

以前より「部員の減少でクラブ活動が難しい。」と相談に来ていたコスモスパソコンクラブ（以下、クラブ）から「9月いっぱいまでクラブを廃部する」と言われ、急遽講座を企画し開催となった。

クラブの存続もあるが、市民より「パソコンの講座はないのか？」といった問い合わせも年に数回あることや、中央公民館でポケット Wi-Fi が使えるようになった時期とも重なり、クラブ存続に期待を込めての講座であった。

クラブ員も活動曜日や時間帯は変わるが、継続したいと講座のサポートに入り、受講者と交流し、クラブに入学しやすい環境作りに協力してくれた。

講師も当初の定員は10人としていたが、13人の応募を伝えると、全員を受け入れ、元クラブメンバーにも声をかけたことで、協力メンバーは当初2人だったが3人に増えた。

受講者は電源がわからない人からエクセルを使いたい人とレベルに差があったが、チラシにも「初心者対象」としていたので、講師の指導の元にすすめられ、受講者の出席率も高かった。

講座途中でアンケートを取り、引き続きクラブ化を進めるための追加講座受講の意思表示をしてもらったところ全員が講座を希望し、実現することになった。

追加講座は月2回とし、前回の講座申込み時にパソコンがなく、受講できなかった2人には館で使っていないパソコンを貸し出し、グループ化も踏まえて受講してもらった。内1人は講座中にノートパソコンを購入し、受講していた。

前期講座から3人が抜け、新たに2人が加わり、クラブ員のサポートを受けながら講座は進んだ。講座途中で、クラブ員の声掛けで1人増えた。

追加講座では、Word でチラシ作や、Excel で簡単な表計算などをし、パソコンの便利さや難しさも学ぶ機会となった。

講座後、9人が継続を望み、次年度の10月にはクラブになるように活動を続けることになった。

<課題>

館内のフリーWi-Fi など活用しながら、団体からクラブへの移行。



## 俺の公民館Ⅱ～趣味を見つけて楽しく生き生き、リア充生活～

<ねらい>

普段、公民館に足を運ぶことの少ない人（特に男性）に、公民館の良さや楽しさを理解してもらい、新たな参加者層の獲得をめざす。

<状況・成果>

日中働いていて公民館のクラブや講座に参加できない人、何となく公民館に敷居の高さを感じている人に公民館を知ってもらおうと昨年に引き続いて企画。タイトルは昨年と同じタイトルにした。

講座は昨年好評だった料理、アウトドアを中心に構成し、最後は働いている世代にゆったりしてもらえるようヨガを取り入れ、全3回の開催とし、働いている人も参加しやすい金曜日の夜間に時間を設定した。また、募集はチラシや「広報かいづか」、市のフェイスブック、ラインなどに加えて、今回市役所職員向けにCネットでも宣伝したところ、職員3名の参加があった。

### ①こだわりのフワフワ親子丼

3/10 金曜日 19時 受講者 7人 講師 伐栗 政人、山中 弓子（全国学校調理師連合会）

昨年の「俺の公民館」では料理講座が人気だったこともあり、今年も料理講座を取り入れた。内容は手軽に家でも作れるメニューでもあるため親子丼を作ることにし、そこに工夫を重ねてフワフワの親子丼にしてみようと企画した。

講師があらかじめ作った出汁に、調味料、鶏肉、葉玉ねぎを加え、最後に卵を入れるのだが、卵を入れた後は煮過ぎないように、すぐに火を止めると固くならず美味しく作れるとのこと。講師は受講者の間を回りながら「素早く！早く火を止めて！」と熱心に指導していた。

出来上がった親子丼は全員で試食した。講師が味噌汁やゆず大根、サラダを作ってきてくれ、おかわりも自由とし、受講者は大満足だったようだ。試食中や帰りに講師に料理のコツを聞く受講者もあり、来年も同様の企画を期待する声が多く聞かれた。



### ②ソロキャンプの楽しみ方 ～最初はデイキャンプから始めるのも～

3/17 金曜日 19時 受講者 5人 講師 篠坂 賢治（大阪府立少年自然の家）

今人気のソロキャンプ、すでにキャンプを経験している人に加えて、これからキャンプを始めたいと考えている人にも受けてもらえるよう、実践も含めたキャンプ入門講座として企画した。

まず、二人一組になって講師が用意したソロ用のドームテントを実際に張ってみた。講師の丁寧な指導のもと次々と部屋中にドームテントが張られて、キャンプ場さながらの壮観な光景が広がった。

次に映像を映しながらテントを張る最適な場所やソロキャンプを企画するうえでの注意点、必要な道具について説明を受けた。

講座のなかで、受講者にソロキャンプのイメージを聞いたところ、ポーッとする、星を見る、読書する、コーヒーや酒を楽しむなど、リラックスするためというイメージをみな持っているようだ。講師の実践を踏まえたキャンプの秘訣も聞き、受講者からは楽しかったという声が聞かれた。



## —成人対象事業—

### ③ヨガですっきりリフレッシュ

3/24 金曜日 19時 受講者 4人 講師 波多野 由香(結華)さん(結 yoga)

ヨガなど身体を動かすことに興味があるが、女性が大勢いると何となく気恥ずかしいという男性も受講してもらえよう企画した。

申込時に「ヨガマットが無ければこちらで用意します」と言っていたが、自身のヨガマットを用意している受講者が多く、関心の深さがうかがえた。

会場は和室で、講座はゆったりとした音楽が流れるなか、大きく深い息をしながら身体を伸ばし、最後は瞑想も取り入れるなど受講者はみな仕事帰りの疲れを癒し、リフレッシュできたようだ。

ヨガはゆっくりした動きだが、普段使わない筋肉も動かす。

講師は無理しないで自分のできる範囲でついてきてくださいと言ってくれていたが、「自身の身体の固さを自覚しました」という受講者もいた。



全ての講座を通して、40代～50代を中心とした年齢層の参加が多く、現在働いている世代にとって夜間の講座は参加しやすいようだ。

受講者の中には昨年の「俺の公民館」が楽しかったからと友人と誘い合って来た人もいた。初めての受講者は「こんな講座をしているのを知らなかった、興味のあるものがあればもっと参加してみたい」と言う人もいた。

#### 《アンケートより》

- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・料理はこれからも企画して欲しいです。
- ・いい企画なので、続けてください。
- ・年齢も近いこともあり、共感することが多く楽しかったです。

#### <課題>

新たな参加者層を増やすための企画の工夫と宣伝方法の検討。

## 夢にチャレンジ

<ねらい>

障がいのある青年（年齢を問わない）たちのチャレンジの場、社会参加の場とする。

公民館のクラブ利用者やボランティアとの交流を深めるとともに、関わった人たちの障がい者理解につなげる。

<状況・成果>

4/16～3/18 第3土曜日 10時～12時 全11回 登録15人

コロナ禍になって貝塚こすもすの里の6人の受講者は未だに参加できていない状況である。毎年一般申込が一人二人とあるが、コロナ禍のこの時期なかなか体調がすぐれず、継続することが難しい。いぶき作業所に通所する2人、夢二色に入所、通所する3人と一般申込4人の参加があり、9人でのスタートとなったが、12月に夢二色から1人参加希望があり受講者が増えた。

前期は、お菓子づくりからはじまり、5月は「中央公民館まつり」の舞台に出演することを目標に「HIPHOPダンス」を2月から数回にわたり練習を重ねてきた。

受講者たちの希望で公民館まつりに出演することにした  
が、練習も数回ということもあり、指導してくれるクラブ  
「大人のHIPHOP チェケラッシュ」のメンバーと一緒に踊れるか不安であった。しかし、本番ではそんな心配もどこかに  
いってしまうくらい、一生懸命に最後まで踊ってくれた。車  
いすでの参加の2人を含め、受講者同士のチームワークもよく、達成感を感じた体験であった。

6月・7月の2回は、恒例の陶芸「すいかの形の蚊取り線香立て」に挑戦した。

受講者の作品へのこだわりも強く、こんなふうにしたいという要求も多く聞かれるようになってきた。講座に全面協力してくれる土曜陶芸クラブのクラブ員は、受講者とコミュニケーションを図りながらその要求に応じてくれていた。

出来上がった陶芸作品は、公民館ロビーに展示し、公民館クラブや利用者に見てもらおう機会とした。

後期は、遊び隊の協力を得てのだんじりづくりで、受講者はとても喜んでいて。

また、職員によるニュースポーツ体験では、日ごろあまり表情を変えない受講者も楽しげに笑顔でゲーム感覚のスポーツを楽しんでいた。

新しいプログラムとしては、月曜絵画クラブのコラージュや昨年度予定していたが台風接近のため中止となったさをり織りに取り組んだ。



月	内容	講師
4月	夢チャレ はじまるよ～	貝塚の知恵袋
5月	楽しくおどろう HIPHOP	大人のHIPHOP チェケラッシュ
6月	陶芸①	土曜陶芸
7月	陶芸②	土曜陶芸
9月	だんじりをつくろう	遊び隊
10月	絵手紙	絵手紙クラブ
11月	ニュースポーツ	山手地区公民館職員
12月	クリスマス料理	料理ボランティア
1月	コラージュに挑戦	月曜絵画クラブ
2月	パンづくり	パンづくりクラブ
3月	さをり織りにチャレンジ	リ・ボーン

—共生課題事業—

この講座に受講者のヘルパーとして来ている人が、「夢にチャレンジはいろんなことを体験させてくれ、私自身が来ることをいつも楽しみにしています。」と感想をくれた。

<課題>

受講者が積極的に取り組めるような働きかけ。

受講者が興味を持てるようなプログラムの開拓。



## ホッとワーク

<ねらい>

視覚に障がいのある人たちに多彩な体験や学習の場を提供する。

障がいのある人たちの可能性を広げ、主体性を高めて精力的な日々を過ごす力をつける。

公民館で活動するクラブやボランティアの協力を得て実施することで、障がいのある人たちへの理解や交流を深める機会とする。

<状況・成果>

5/24～3/28 全10回 第4火曜日 10時～12時 受講者11人



コロナ禍といえ予定通りの5月開講となり中央公民館クラブ「コールシェル」の歌声と共に「ホッとワーク」の春を迎えた。

依然、続くコロナ禍であるが、公民館としては変わらぬコロナ対策を続けまた受講者、各自がしっかりと体調を整えて受講した。集まったメンバー同士の元気な顔に受講者は喜びを表した。

今年度、講座の新しい取り組みとして、公民館職員による「英会話にチャレンジ」をテーマとして空港・飛行機内・買い物をイメージしたBGMも流し臨場感を作って基本英会話にチャレンジした。

8月の夏休みに入る前の講座では昨年5月に中止となった「なかなかええやん貝塚市」として本市の实情、新しい政策の話の聞き貝塚市の将来ビジョンを共有した。

夏休み明けの「料理にチャレンジ」では、講座内容により受講補助もおこなうガイドヘルパーに、日頃の感謝をこめて料理を振る舞った。昨年度、終了時



点よりすでに希望があった「ろうの花」作成では完成した作品を貝塚市障害者作品展に続き、公民館ロビーにおいても展示し講座活動を披露した。年末の「川柳を楽しむ」では各受講者の発想の妙・発見が詠まれ、年明けの講座「落語を楽しむ」なども伝統的な話芸の持つ趣に笑いが絶えなかった。



### 年間プログラム

5/25	「コーラスを聴く」	コールシェル (中央公民館クラブ)
6/28	「英会話にチャレンジ」	公民館職員
7/27	「なかなかええやん貝塚市 についての話」	政策推進課職員
9/27	「料理にチャレンジ」	ふれあい料理ボランティア
10/25	「ろうの花」を作成	ろうの花(中央公民館クラブ)
11/29	「楽しく元気に体操」	高橋智子(健康運動指導士)
12/20	「川柳を楽しむ」	浜手川柳クラブ講師
1/24	「落語を楽しむ」	千里亭だし吉(お笑い福祉士)
2/28	「料理にチャレンジ」	ふれあい料理ボランティア
3/28	一年のふり返り	相互に話し合い

ここ数年、継続した新規受講者はなかったが、秋より新規受講者2人が本年度最終まで参加した。

受講者のひとりがあるとき「ホッとワークに学びに来ているんだ」と言った。公民館の学びに年齢も立場も関係ないとあらためて感じた。

<課題>

新規受講者、現受講者の積極的な講座参加につなげる内容・広報の充実。

## ふれあい料理

### <ねらい>

料理を通して障がい者のできることを伸ばす。障がい者の社会参加の場とする。

ボランティアをはじめ、他者との交流を深める。

### <状況・成果>

4/22～3/24 毎月第4金曜日 10時半～12時半 受講者 22人

市内5施設(いぶき、どんまい、夢二色、あすなる、らばん) 一般2人

ふれあい料理ボランティア 16人

昨年度末にあたる3月、1年間の振り返りと次年度に向けてのミーティングを行った。出席者は各施設職員と、ふれあい料理ボランティア、担当職員によるもので年に1度開催をしている。ミーティングでは、受講者の様子をききとり、講座に関する感想や意見を述べ合い、次年度に向けて改良する点や大切にすることを共有し、講座の目的を確認する場となっている。

コロナへの予防対策として受講者数を減らしたため、各施設にとっては2か月毎の参加となり、物足りなさを感じていたが、それも次第に慣れてきた様子だ。コロナ以降、参加に慎重になっていた夢二色も今年度は4月から参加の意向を示し、久しぶりに全施設が参加できる状況となった。

施設職員は、コロナ下でありながら中央公民館がいち早く開講したことを喜んでくれた。施設の生活だけでは人間関係に限られてくるため、公民館にきて挨拶を交わし、ボランティアと会話をすることが経験や刺激になっている、と言う。一人暮らしをしている利用者も多く、自宅でレシピを活用していることや、作業所でのまかない料理を手伝い、助かっていることが語られ、受講者の生活力を高める一助にもなっているようだ。

また、先を見通すことが苦手な利用者もいるため、口だけでなく実際にやって見せることで理解が深まることなど、接し方についてのアドバイスが施設職員よりもられた。

時には、施設とは違う表情を見せる受講者の姿に、感動で涙している施設職員もいる。ふれあい料理講座ならではの光景であり、講座の必要性を感じる場面でもあった。

### <課題>

個々の受講者に応じたコミュニケーションを図るために、相互の関係性をさらに密にする。

施設職員、ボランティア、職員の情報交換の場を大事にしていく。

### <プログラム>

4-5月	キーマカレー、マカロニサラダ、抹茶ういろう、
6-7月	さけすし、小松菜からしあえ、とろろ昆布のすまし汁、コーヒーゼリー
9-10月	牛肉の柳川風、なすの和風ピカタ、根菜汁、フルーツアイス
11-12月	ピザ、ほうれん草のキッシュ、から揚げとポテトフライ、スープ、ケーキ
1-2月	牛肉の混ぜ寿司、コールスロー、茶わん蒸し、オレンジゼリー



## 介護について語り合う場

<ねらい>

介護に携わる人たち相互の交流と学習により、介護当事者の孤立や介護の不安を無くし、精神的な負担を軽減させる。

<状況・成果>

4/25～2/27 偶数月の第4月曜日 13時半～15時（全6回） 受講者 延べ57人

協力：貝塚市介護者家族の会「コスモスの会」

今年度は多様な介護の現状と課題について、資料をもとに学びつつ話し合いを深めた。

4月には全国男性介護者ネットが作成した「男性介護者ネット通信」から男性介護者の経験談を資料として男性介護者の課題について話し合った。

6月には、介護について語り合う場のメンバーからのリクエストで、現在大きな課題となっている「ヤングケアラー」について学んだ。

8月は介護者支援の課題について、諸外国の先進事例であるイギリス・ドイツ・フランスの支援政策と日本のケアラー支援条例の制定状況を資料として、介護者支援の現況について情報共有を行った。

10月は老々介護の問題について、新聞記事や厚生労働省の報告などをもとに話し合った。実際にメンバーの中には老々介護真最中の人もおり、参加したメンバーは身近な問題としてより関心深く受け止めていた。

12月は10月29日に行った斎藤真緒氏の講座について振り返った。

2月は介護福祉士でケアコーチである高野玲佳氏に介護でイライラしない心の持ち方について話をしてもらった。

昨年参加した認知症の配偶者を介護する男性2人も引き続き参加している。「ここは修行の場、ここで受けたアドバイスを実践するようにしている」、「腹が立つこともあるが、何とかこらえている」と言ってくれ、この講座で悩みなどを話すことで、気持ちが落ち着き、リフレッシュできているようだ。ほかのメンバーも、実際に昨年講座に参加し始めたときより、表情が明るくなったと感じているようで、「良かった」と自分のことのように喜んでいて。

その他、今年、自身も体の不調を抱えながら両親の介護を行う女性など、新規参加者も相次いだ。また、中央公民館で活動する傾聴ボランティア「そよ風」の有志3人が新たに講座に参加するようになった。

これまで介護について語り合う場に参加しているメンバーの多くは実際に家族の介護に携わった経験を持つ。対して傾聴ボランティアのメンバーは介護の経験がない人がいるものの、これまでの傾聴活動の経験をもとに議論に参加してくれている。

互いに異なる立場からの発言に対し、従来参加している介護について語り合う場のメンバー、傾聴ボランティアのメンバー相互が刺激を受けたようだった。

介護に悩む参加者に対して、傾聴ボランティアのメンバーが「いつでも話を聞くよ」と呼びかけることもあり、少しでも家族介護者の負担感を軽くする方向へ導くことができればと思う。

昨年も開催した介護者に関わる講座については、介護について語り合う場での「また話が聞きたい」という希望から、斎藤真緒教授に昨年に引き続いて講演をしてもらうことになった。

当日は、介護について語り合う場のメンバーも参加してくれ、「大変勉強になった」との意見が多く聞かれた。また、講演のなかでの「雑談9割、相談1割」、「介護は苦しさだけでなく、周囲の協力に感謝するこ

—共生課題事業—

ともある」といった言葉に共感を受けたようだった。

介護（ケア）は、年齢も対象も近年急速に広がってきている。誰もが何らかの形で介護に関わらなくてはならない時代になってきているともいえる。

立命館大学名誉教授の津止正敏氏は「介護は介護に関わる人だけでなく、多様な職種や地域の人々が関わらなくてはならなくなっている。介護者への支援が重要である。コンビニの数ほど介護者のコミュニティが必要」と言っており、この「介護について語り合う場」も今後ますます介護者支援のコミュニティのひとつとして機能させる必要があると考えている。

<課題>

社会福祉協議会や地域包括支援センター等との連携を図り多様な介護についての課題に向き合う講座内容を検討する。

自身が介護者であると認識していない人や周囲の人にも気づきを促すような働きかけを行い、受講者を増やす。

	内 容	受講者数
4/25	(相互) 資料; 男性介護ネット通信「俺流の介護」、(男性介護者ネット) 会員からのお便り	12 人
6/27	(相互) 資料; ヤングケアラーについて、ヤングケアラーの実態に関する調査研究要旨ほか	10 人
8/22	(相互) 資料; 諸外国の介護者支援について、日本におけるケアラー支援に関する条例について	10 人
10/24	(相互) 資料; <<新聞記事>> 老老介護 深まる孤立閉ざされた心に寄り添う支援を <<新聞記事>> 老老介護 負担軽減へ支援を重層的に 令和4年版高齢社会白書 (抜粋)	10 人
12/19	(相互) 資料; 講座「多様な介護者 (ケアラー) の課題と支援～ヤングケアラー、 ダブルケアラー、男性介護者～」記録	6 人
2/27	「相手も自分も大切にするコミュニケーション」 講師: 高野玲佳さん (介護福祉士・ケアコーチ)	9 人

主催：具塚市立中央公民館 **参加費無料**

## 介護について語り合う場

介護者とは、こころやからだに不調のある人の「介護」「看護」「療養」「世話をし」「気づかい」など、ケアが必要な家族や近所者、友人、知人などを無償でケアする下町の部のような人のことです。



「悩んでいる母親の様子をたまに伺いに行く。」  
「仕事をしながら、子育てしながら、従来の業柄も残している。」  
「得意の資格を西に業や生活リズムを異なって働ける」など。

もしかして、それって当たり前のことをしているだけ、自分は「介護」していない、と思いませんか？  
**あなたも立派な介護者です！！**

「介護について語り合う場」は、介護の経験者や実際に介護をしている人たちが、みんなで集まって、介護についての学習や意見交換をしながら、交流しています。  
**ぜひ、気軽に、ご参加ください。一度のぞいてみませんか。聞くだけでもOKです！！**

◆開催日  
毎月 第4月曜日 午後1時30分～3時  
○10月24日 ○12月19日 ○2月27日

◆場所 具塚市立中央公民館  
講堂3(コスモシアター2階)

◆協力 具塚市介護者家族の会「コスモの会」

◆問合せ先 中央公民館  
【電話】072-433-7222

たとえば、  
6月にはヤングケアラーについて話し合いました。  
8月には、海外や日本の介護者支援の状況を学びました。  
もちろん、みなさんの介護の悩みや相談をする場にもなっています。



## 多様な介護者（ケアラー）の課題と支援 ～ヤングケアラー・ダブルケアラー・男性介護者～

<ねらい>

社会課題となりつつあるヤングケアラーなど多様な介護者の支援について、学び、周囲の理解や介護者自身の気づきを促し、地域での介護者支援の拡大を図る。

<状況・成果>

10/29 13時半～15時半 参加者12人（うちZoom参加1人）

講師：斎藤 真緒（立命館大学教授）

現在、定期的で開催している「介護について語り合う場」では、介護者の悩みや現代の介護課題などを話し合ってきたが、そこから見えてきた介護者（ケアラー、以下ケアラーという）は、社会状況の変化等により、いわゆる「お嫁さん」と呼ばれる専業主婦が配偶者の親や自身の親を介護する姿から子どもや孫、配偶者（特に高齢の男性）など多様な姿へと変化していた。

そこで今年度の「介護について語り合う場」は、様々なケアラーの事例について、資料をもとに学習する取り組みを行った。働きながら介護するダブルケアラー、学校へ行きながら介護している、いわゆるヤングケアラー、高齢の男性介護者、こうした生き辛さを抱えた多様なケアラーの居場所づくりが喫緊の課題であることがわかってきた。

そのため、介護について語り合う場の参加者にケアラーの課題について、学び、話し合う講座を開催したが、どのような講座が良いだろうかと問いかけたところ、昨年も講座で話をしてもらった斎藤真緒教授に「また話が聞きたい」という声があったことから、この講座を開催することとなった。

講座はより多くの人に聞いてほしいとZoomでのオンライン参加も可能とし、チラシ等で呼びかけ募集したところ、当日1人のZoom参加者があった。対面での講座参加者には、「介護について語り合う場」にも参加している介護者家族の会のメンバーのほか、社会福祉協議会の職員や公民館運営審議会の委員が参加していた。

また、貝塚市民図書館からの協力申し出により、当日図書館蔵書のケアラー関係の図書一覧を参考資料として配布した。

講師である斎藤真緒教授は、『子ども・若者ケアラーの声からはじまる ヤングケアラー支援の課題』という本の著書にも名前を連ねている。自身が子ども・若者ケアラーの支援に関わることになったきっかけは、自身の子どもが知的障害を抱えていたことと、大学で出会ったFさんという女子大学生との出会いによるもので、今の社会において介護が抱える課題、介護者支援について深く考えるようになったとのことだった。

また、ヤングケアラーという視点で支援をしていくと、その子どもが18歳以上になったときに支援を離れることになるが、人生の土台作りで最も大事な時期に介護を担わなければならなかった子どもへのその後の配慮も必要であること、ケアラーが自己犠牲を負わず、介護を受けている家族も含めて「家族まるごと支援」という視点が必要であることなどが語られた。

そのほか介護者への相談に際しては、いきなり「相談してください」ではなく、「雑談9割、相談1割」ぐらいの何気ない会話から少しずつ悩みを聞く手法が大事であるという話もされていた。

参加者からは、なかなか相談にもいかないケアラーをどのように見つけたらいいのか、ヤングケアラーを支援するにあたって学校の先生への指導はどうなっているのか、今の介護支援制度の中でケアラーを支援す

—共生課題事業—

るための方法についてなどの質問があり、斎藤真緒教授はこうした質問に真摯に答えていた。

参加者からは、「大人が幸せでなければならないという言葉があったが、本当にそうだと思う」、「雑談9割、相談1割というのは、今まで地域で活動してきた経験上、実感できる」、「男性介護者が増えてきているというのはわかる、重大な事件も男性が加害者になっている事例が多くなってきていると思う」、「自分が介護者に関わったり、介護について学んだりするうえで、今日の講座はすごく勉強になった」という感想が聞かれた。

最後に斎藤教授は、自身が知的障害の子どもをもったことにより、悲しい思いもしたけれど、たくさんの周囲の人によって助けてもらうことができた。地域の人たちがもっと少しずつでもケアラーに寄り添い、ケアラーがもっと尊重されるような社会づくりが大切であるということを言われており、こうした社会をつくるための学びを提供することの必要性を改めて感じる講座であった。斎藤教授の講座を受けて、引き続き介護を受ける本人だけでなく介護者も含めた支援という視点からの講座に取り組んでいくことが必要である。

<課題>

引き続き同様の講座を行い、ケアラーの抱える悩みや生き辛さ、負担感などを少しでも取り除く「居場所」作り。

適切なケアラー支援へと結びつけることができる「きっかけ」作りに取り組む。



斎藤真緒 立命館大学教授



Zoom 参加のようす



## 日本語会話よみかき教室

### <ねらい>

在住外国人やさまざまな要因で日本語が不自由な人たちに日本語の読み書きの支援をする。

日本で安心して生活できるようにそれぞれの問題、相談ごとに対応し、支援を行う。

### <状況・成果>

4/4～3/28 受講者 42人 ボランティア 22人

日本語の読み・書き・会話に困っている人たちにボランティアが教える講座で各館の開講状況は下記表の通りである。今年度も受講者は全員在住外国人であった。

教室では受講者一人ひとりに寄り添い、それぞれの日本語能力や学習状況に応じて教材選びなどきめ細かな指導を行っている。また、学習だけでなく受講者の仕事や生活面でも親身に相談にのるなどボランティアは受講者にとって心強い存在である。

今年度、中央公民館（以下、中央）、浜手地区公民館（以下、浜手）では仕事復帰や家庭の事情などで受講者の欠席が続き、各館の受講者が1人のみの出席という寂しい状況もあった。ボランティアみんなで相談し、受講者どうしが交流をもち学習できるように、2館で合同学習を行うなど工夫して取り組んだ。また、コロナ禍でここ2年程は海外からの出入国制限もあり、受講者も減少傾向となっている。そこで、自分たちの地域に住んでいる在住外国人や日本語会話よみかき教室（以下、教室）の存在を知らない人に向けて異文化理解やつながりづくりを目的とした講座「韓国のこと知ってる？」を韓国出身受講者に講師を依頼し、9月に中央で2回連続講座として開催した。広報やチラシを見た人がたくさん参加し、今まで教室のことを知らなかった市民と受講者が交流を図る良い機会となった。

山手地区公民館では夜間開講のため仕事帰りに学習に来ている技能実習生が大半を占める。工場、調理師、医療などの専門的な資格を持って来日する受講者が多い。そのほとんどの受講者がすでに教室に通っている受講者からの口コミや職場からの紹介で受講している。昨年度から引き続きコロナの影響で、福祉、医療従事者は業務多忙や感染対策を理由に出席を控える人が多かったが、ベトナムを中心に韓国、中国、中東、イギリスの新規受講者も新たに加わった。コロナの影響で仕事や慣れない土地での生活にストレスを抱えている受講者も教室に参加することで友達を作り、おしゃべりを楽しんだり、普段どこに買い物へ行くかなどの情報交換をしたりと日本語学習だけでなく受講者どうしの憩いの場として教室に集っている。

### <課題>

安定した受講継続をサポートする。

午前開講の中央、浜手の受講者を増やすため、引き続き広報に努める。

開催場所	曜日・時間	回数	受講者数	出身国
中央公民館	火・10時～12時	35	6	ベトナム、中国、パキスタン
浜手地区公民館	火・10時～12時	28	3	中国、韓国、台湾
山手地区公民館	月・19時半～21時	42	33	ベトナム、台湾、中国、韓国、シリア、パキスタン、イギリス

## 韓国のこと知ってる？

### ～韓国文化&家庭料理を聞いて、見て、味わって！～

<ねらい>

異文化理解。

日本語会話よみかき教室の存在を知ってもらうきっかけづくり。

地域の日本語学習者、学習支援者への呼びかけとつながりづくり。

<状況・成果>

① 9/6 ② 9/13 火曜日 ① 10時～12時 ② 10時～13時 全2回 一般受講者 13人

講師：ヤン・ジョンヒ（日本語会話よみかき教室 浜手受講者）

協力：日本語会話よみかき教室ボランティア 7人

：日本語会話よみかき教室受講者 中央：2人 浜手：1人 山手：1人

日本語会話よみかき教室（以下、教室）の中央公民館（以下、中央）と浜手地区公民館（以下、浜手）の教室では、特にコロナの2年程、海外からの出入国に制限がかかっていたこともあり受講者が減少傾向であった。そこで、地域に住んでいる在住外国人や教室の存在を知らない人に知ってもらう機会と異文化理解やつながりづくりを目的に教室の受講者、ボランティアの協力を得て中央で2回講座を開催した。市内在住24年の韓国出身受講者に講師を依頼したところ快く引き受けてくれた。第1回目は、まずボランティアから教室の歴史や成り立ちを説明してもらい、講師が来日したきっかけや公民館で日本語を学ぶようになった経緯などを話してもらった。また、講師の出身地でもある韓国釜山で撮影した風景や料理、母国の家族と過ごす普段の生活の様子など写真を見ながら衣食住に関する韓国文化を簡単な韓国語学習も交えながら理解を深めた。講座中には韓流ブームのきっかけとなったドラマの主題歌を聞きながら、講師が準備してくれた韓国伝統茶のトウモロコシ茶とお菓子をいただき、リラックスした雰囲気の中で講座受講者と講師が楽しそうに会話している場面が見られた。講師は、受講者一人ひとりの名前と顔を覚えたいからと講座の受付時には自ら受講者を出迎え、終了時には残って受講者からの質問に答えるなど和やかに交流する場面があった。



第2回目は料理室で講師に前で説明してもらいながら韓国の代表的な家庭料理のナムル、ビビンバ、わかめスープを作った。友人どうしで参加していた受講者もいたが、ボランティアと相談し、あえて座席は一緒にせず各テーブルに一般受講者、ボランティア、教室の受講者の3者で普段関わったことないメンバーが料理を作りながら交流を図れるように工夫した。この日は山手地区公民館の韓国出身受講者で調理師をしている人にも講座のサポートに入ってもらい、中央や浜手からも中国、ベトナムの受講者が手伝いに駆けつけてくれた。講座の始め頃は少し緊張していた一般受講者もみんな協力して料理を作ることで打ち解け会話も弾んでいた。講師も各テーブルを回りながら作業が遅れている所に入ったり、ポイントを説明しながら丁寧に関わってくれた。講座終了後には受講者どうし、「今日、初めて会いましたがお友達になりました。また、教室にも一緒に参加させてもらいたい」とこの講座をきっかけとして教室の活動に興味を持った3人が見学に来てくれ、内2人が中央、1人が浜手のボランティアに加わった。また、公民館に来たのが初めてという人も5人いた。中には受講者から講師に直接、連絡先を交



換しませんかと講座終了後に話しかけに行く様子も見られた。

ボランティアは「講座準備や材料の買い出しなど限られた人数で担当するので大変な面もあるが、こうして教室の宣伝にもつながるので開催して本当に良かった。また、機会があれば開催したい」と言ってくれた。講師も「日本での生活の新たな思い出になりました。皆さんと一緒に楽しい時間を過ごすことができとても幸せでした」と語っていた。

<感想>

・公民館での講座は初めてでしたがとても参考になりました。いろいろな年代の方との交流も良かったです。

・韓国料理、お話、とても楽しかったです。

・グループの皆さんとお話はずんで、とても楽しかったです。

・色々なお料理の紹介もよかつたし、先生の明るいお人柄もとても癒されました。

・コロナで調理があまりなかったので、このような会、各国の文化を学び調理を楽しむ講座があればまた参加したい。

<課題>

日本語会話よみかき教室の周知、宣伝。

地域住民へ異文化理解の機会を設ける。

日本語学習者、支援者への情報提供。



## 文化事業

<ねらい>

芸術や文化に親しむことができる場の提供。

公民館を利用したことのない人たちに公民館を知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

### ◆クラシックコンサート

「ピースフルコンサート～音楽で笑顔を～」(出演：貝塚市クラシック音楽家協会)

11/20 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者：49人

昨年のクラシックコンサートは特別にコスモスシアター中ホールで開催したが、今年は通常通り視聴覚室での開催に戻った。

まだまだコロナは収束しておらず、募集人数を50人に制限し、出演者と客席の間にパーテーションを設置して感染対策を行った。

募集より多く集まった人に対しては、会場の外にテレビモニターを設置して、会場内の様子を見てもらうこととしたが、キャンセルなどが相次いだため、全員が会場内で鑑賞することができた。

当日は、声楽やピアノ連弾やヴァイオリンなど平和や笑いをテーマとしたクラシックの名曲17曲が演奏された。合間には、司会者により曲の意味や演奏者の思いなどが語られた。

出演者の方々の熱演に、会場は暖かい拍手に包まれた。

～感想～

- ・何度となく鑑賞させていただいて、ありがたく思っています。機会があれば、開催回数をふやしてほしいと思っています。
- ・とても良かった、又参加したい。
- ・スタッフとても親切で、丁寧に接して下さって、ありがとうございます。



## ◆ジャズライブ

1/15 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者：50人

(出演：中野ひろしクアルテット)

ジャズライブもクラシックコンサートと同様、募集人数を50人に制限して広報を行った。毎年人気のジャズライブだが、今年も募集早々にキャンセル待ち分も含めてチケットが無くなるほどであった。当日は、パーテーションは置かず、出演者と客席の間隔を広くして感染対策を行った。

昨年と同じく会場に入れなかった人のために、ロビーにテレビモニターを設置して、会場内の様子を見てもらうこととしたが、キャンセルや途中退場などがあって、結果的に全員が会場内で鑑賞することができた。

ライブでは、馴染みのあるスタンダードナンバーを含めジャズの名曲が次々と演奏され、中野ひろしさんのサクソをはじめとした迫力のある楽器演奏で会場は興奮に包まれた。感染対策のため、会場での声出しは禁止としていたが、自然とロズさんだり、声が出てしまったりする人もあった。

最後に中野ひろしさんから、「来年もここでライブをやります」との宣言があり、観客は大いに喜んでいった。

### ～感想～

- ・ジャズの定番曲～バラード等、巾広くとても良かったです。中野さんのトークも楽しかった。
- ・今日みたいなコンサートがジャズらしくて良いです。ピアノドラムベース最高でした。
- ・今日の企画ありがとうございました。心と胸が爽やかになりました。



—文化振興事業—

### ◆春一番コンサート

3/19 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者：55人

(出演：サザンウインドアンサンブル)

春一番コンサートも会場の人数を50人に制限して広報を行った。毎年楽しみしている人も多く、チケットは早い段階ですべて無くなった。今年も会場に入れなかった人のために、ロビーにテレビモニターを設置して、会場内の様子を見てもらうこととした。

開催はちょうど新型コロナが2類から5類に引き下げられることが決定し、マスクの着用も個人の判断に委ねられるようになったばかりの時期だったが、出演者とも相談し、感染対策として出演者と客席の間にパーテーションを設置して行うこととした。

コンサートではクラシックの名曲だけでなくポップスや映画音楽なども演奏され、馴染みのある音楽と美しい弦楽器の音色に会場の人も癒やされていた。また、プログラムには弦楽器のソロ演奏も取り入れられ、演奏後には司会者が演奏者と対談を交えながら、楽器の紹介をするなどして、より演奏を楽しめるような工夫が施された。最後は観客と出演者が一緒になって「ふるさと」を合唱し、長く続いたコロナ下の生活が収束していく喜びを会場全体で感じているようだった。

～感想～

- ・コロナ禍でなかなか開催されずにいましたが、これからとってものしみです。  
クラシックにふれる機会が、とてもうれしいです。
- ・聞いたことのあるなじみの曲を身近で、きけてよかったです。生はちがうわ～!
- ・1年に1回ではもったいない!



<課題>

現在開催している文化事業に加えて、幅広く多彩なジャンルの文化芸術に触れてもらう機会を検討する。

## ピアノリレー

### <ねらい>

ピアノリレーを通じて老若男女を問わず、文化に親しむ機会を提供する。

公民館が身近な場所であることを知ってもらう機会とする。

### <状況・成果>

GWピアノリレー	5/1	日曜日	9時～16時	参加者 45人	演奏者 19人 (延べ)
七夕ピアノリレー	7/3	日曜日	9時～16時	参加者 51人	演奏者 16人 (延べ)
Xmasピアノリレー	12/18	日曜日	9時～16時	参加者 59人	演奏者 19人 (延べ)
ひなまつりピアノリレー	3/5	日曜日	9時～16時	参加者 62人	演奏者 18人 (延べ)



昨年はコロナ緊急事態宣言で開催中止であったため、GWピアノリレーとしては初開催であった。さらに、年度末の3月にはひなまつりピアノリレーも開催された。昨年度のXmasピアノリレーに続き、令和4年度に開催されたすべてのピアノリレーに貝塚少年少女合唱団のミニコンサートも花を添えた。

数人のリピーターも定着してきているが、「このピアノリレーを知らなかった、もっと早く知っておけばよかったです。」との話もあった。

参加者には次回開催予定を伝えるが、さらなる広報も考える必要があるのかもしれない。

気軽に公民館に来て、思い思いにグランドピアノで演奏する。

そして順番を待つ演奏者の家族がギャラリーとなる、そのシチュエーションが特別な空間になっている。しかし、どのギャラリーも暖かい拍手で応援してくれる。そして参加者同士がつながっていく。



特に子どもたちには知らない人が自分の演奏を聴いてくれる、そして拍手をくれる。大舞台ではないが緊張の中で精一杯の演奏をすることが特別な経験となっているようだ。家族への発表会にもなりどの家族も子どもの成長を喜んでいた。

また、過去にピアノを弾いていたがピアノリレーを知り、再び弾きはじめた演奏者、さらにグランドピアノを弾くことが楽しみになって練習を積むなど生活の中の一つの励みになっているという演奏者もいた。

今年度のピアノリレーも誰もが集う、弾く、歌う、聴く、そして演奏者・参加者同士がつながっていく公民館らしいピアノリレーとなった。

### <課題>

宣伝方法を工夫して季節ごとのピアノリレー開催の認知度をあげる。

## 元気ができるミニコンサート

<ねらい>

公民館で活動するクラブ・グループの活動を発表する場の提供。

コロナ禍でのストレス解消の場とする。

生の演奏に触れる機会とする。

<状況・成果>

**沖縄三線コンサート** 6/26 日曜日 13時半～15時 参加者 28人

協力:沖縄三線サークル遊び場 出演者 7人

コロナ下になって3年。コロナの収束もなかなか見えてこない中、何か元気になれるものはないかと考えているときに公民館で練習している「沖縄三線」が耳に入ってきた。なんだか気持ちがウキウキしてきて、ゆっくりと演奏を聴いてみたくなった。

早速、遊び場のメンバーに声をかけたところ、あそび場のメンバーも発表する機会がなく、困っていたということですぐに快く引き受けてくれた。

当日は、コロナ感染症対策をしっかりとったうえでコンサートを開催した。

コンサートではいっしょに歌える場面があったり、沖縄の踊り「カチャーシー」で参加できる場面があるなど会場が一体となって楽しむことができた。

～感想～

とっても楽しかった。91歳の歌好きなおじいさんです。

コロナを忘れるひと時、元気もらえました。

一度中縄へ行ってみたいくなりました。



**親子で楽しむコンサート** 8/21 日曜日 13時半～15時 参加者 14人

協力:かたつむり 出演者 3人

夏休み期間中ということで、親子で参加してもらえるコンサートを企画。

クラブの人や前回の沖縄三線に来た人も申し込みをしていたが、コロナ感染症が増加傾向にあったため、キャンセルが相次いだ。

当日は親子連れ、家族連れの参加があり、前日の人形劇でコンサートを知った人の参加もあった。

コンサートは、二部制で一部では子どもたちが退屈しないよう、よく知っている曲や手遊び歌などを入れながら、工夫してくれた。

二部では、日本の四季を感じられるなつかしい曲をゆったりと聴かせてもらい、綺麗なハーモニーに参加者たちは聞き入っていた。

**ウクレレコンサート** 9/25 日曜日 13時半～15時 参加者 35人

協力:中央公民館クラブ ホロホロウクレレ 出演者 19人

山手地区公民館クラブ ククルウクレレ 出演者 6人

市広報やチラシの配架などで案内はしていたが、なかなか定員に満たず開催直前まで心配した。しかし、当日は定員の35人が集まり会場はいっぱいになった。

今回のコンサートの出演クラブは講師が同じであるため、中央・山手のクラブが合同でコンサートを開催してくれた。

また、中央のウクレレクラブは今年の公民館まつりの発表を機にクラブ員が大幅に増えたこともあり、見ごたえのあるコンサートとなった。

ウクレレクラブのメンバーの楽しげに演奏している姿が印象的でこのコンサートを企画・開催してよかったと思えたコンサートとなった。



～感想～

ウクレレという小さな楽器でたくさんの楽曲を聞かせて頂き、とても良かったです。ハワイの雰囲気も味わうことができました。クラブ員の皆様の日頃の練習、大変だったと思いますが、楽しかったです。

はじめてのウクレレコンサートでしたが、楽しく元気がでました。演奏されてる皆様の素敵な笑顔にとても元気をもらいました。

楽しんで演奏されている姿を見て、楽しい時間を過ごすことができました。

ソロや合奏やいろいろ聴けて、素晴らしかったです。

<課題>

アフターコロナを検討しながら取り組みの工夫をする。

## 遊び隊（あそび隊・折り紙グループ）

### <ねらい>

近郊の地域に出かけるボランティア活動を支援する。

次世代を担う人材育成。

### <状況・成果>

登録メンバー18人（あそび隊15人・折り紙グループ3人）

貝塚市内を中心に小学校・幼稚園・保育園・こども園・子育てグループ・介護施設・障がい者施設・公民館の講座事業などからの依頼で現地に出向き、子どもから高齢者まで幅広くおもちゃ作りや昔あそびを通して交流している。また、月に1度、中央公民館で定例会を設けスケジュールの調整、おもちゃ製作の勉強会、講座準備、材料作りなど隊員の交流や情報交換の場にもしている。コロナ禍で定例会の出席や活動を控える隊員も多いが、出席者が少なくても顔を合わせ、互いの近況報告から今後の前向きな活動の話し合いをしている。コロナの影響で活動は完全に元通りとはいかないが、昨年度に比べて今年度の活動は全体で14件増加した。

今年度の活動（計24回）	
幼・保・こども園・小学校	7回
公民館講座・グループ	14回
施設・他市	1回
地域・町会ほか	2回

今年度は「遊び隊 隊員大募集！」のチラシを見た女性が1人、また浜手地区公民館の「新春あそびたい会」に参加していた男性ボランティア1人に隊員から声を掛け新たに加わった。しかし、遊び隊の立ち上げから長きにわたり関わってきた副隊長と男性隊員、そして、折り紙グループの2人が年齢や体調不良などの理由で今年度をもって退会することになった。

年々、隊員の高齢化が進む中、新たな隊員の獲得と次期副隊長の選出など体制づくりが課題である。他の隊員たちも活動の準備や片付けなど出来る作業を分担するなど新体制も動き出してはいるが、隊長が活動の依頼先とのやり取りや打ち合わせなどをほとんど1人でこなしているため、隊長にかかる負担はまだ大きい。隊員どうしが定例会やグループラインで密に連絡を取り合い情報共有し、みんなができる範囲で隊長をサポートしていくことが今後の遊び隊運営を継続していくうえでとても重要であると思われる。

また、今後は新規隊員獲得のためチラシや口コミでの宣伝に加え、実際に遊び隊の活動紹介や手作りおもちゃなどの体験講座を企画するなど宣伝方法を隊員みんなで考え企画していきたい。

### <課題>

新たな遊び隊員の獲得。

今後の遊び隊を担っていける後継者の育成。

誰でも運営できる体制づくり。

**遊び隊の歴史**・・・遊び隊は「あそび隊」と「折り紙グループ」をあわせた総称。あそび隊は「つるかめ大学遊び隊」と公民館講座の「あそびボランティア養成講座」終了メンバーを中心に平成20年に発足。折り紙グループは平成9年につるかめ折り紙として結成し、平成22年中央公民館クラブ協議会に加入。その後あそび隊と共に活動していく中で平成24年に一緒に活動することとなり、その際に全体の総称を「遊び隊」とした。折り紙グループは、誰でも申込みなしで参加できる「オープン折り紙」事業を毎月第3土曜日に実施している。



## 保育ボランティア

<ねらい>

子育て中の親の学習機会を保障し、子どもにとって安心・安全かつより良い保育をめざす。

親の気持ちに寄り添い、親への支援を心がける。

<状況・成果>

定期登録10人 不定期登録5人

令和3年度はコロナ感染拡大による緊急事態宣言発出で、中央公民館では「おや子教室」が中止となったため、保育ボランティア（以下、ボランティア）の活動ができなかった。

そのため、随分長くボランティアの顔合わせができなかったこともあり、今年は、「一度皆さんで集まって話をしましょう」ということで、ボランティアの登録及び「おや子教室」の案内に同封し、令和4年6月14日、事前に顔を合わせるようになった。

顔合わせの当日は4人のボランティアが集まり、久しぶりの再会を喜び合った。近況報告では、新たな仕事を始めて環境が変わったという人、外に出られずストレスがたまったという人など各々のコロナ禍での生活が語られた。

介護事業所で働くボランティアは、「小さい子どもと遊ぶ機会が無かったので、ボランティアで子どもと一緒に遊ぶのが楽しみ」とおや子教室の保育を楽しみにしていた。

9月からのおや子教室を前に8月30日に準備会を開催した。今年度から新しくボランティアが1人増加した。その人は、2020年度のおや子教室の受講者で、そのときのボランティアの姿を見て「自身もいっしょに活動したいと思った」と言ってくれた。

ボランティアの草創期から続く「受講者からボランティアへ」という伝統が、今も続いているということであらわす出来事だった。

今年度のおや子教室の保育は2歳児が2人で、ほかの5人は乳児だった。人見知りをして泣く子もいたが、ボランティアのメンバーは手慣れた様子であやしていた。最初は大声で泣いていても次第にボランティアに懐いてくれる子もいて、改めてこれまでの経験に培われたボランティアの実力を実感することができた。

おや子教室最終日には、受講者だけでなくボランティアにも入ってもらい、全員で講座の振り返りを行った。保育の様子を撮影した映像を受講者である母親に見てもらい、保育の合間にボランティアが手作りする修了書を子どもたちに手渡した。ボランティアは子どもの様子を見ながら受講者と話し合い、受講者の相談にも耳を傾けていた。

受講者は、初めて自分の手を離れた子どもたちの様子を見て、保育室での親が知らない姿を知り、自分だけでなく子どもも成長していることを感じ取っていた。

令和5年2月7日と14日には、ボランティア養成講座を開催した。今年度の養成講座はすでに登録しているボランティアもスキルアップのための参加を可能とした。講座には中央公民館のボランティアから3人の参加があり、講座内容に大変刺激を受けたようで、ボランティアどうして「保育時の参考になるね」と話し合っていた。また、「子育て支援センターで、何か力になれば」と申し出るボランティアもいた。ボランティアが保育や子育てについて、熱心に考えてくれていることを知り、来年度も保育ボランティアの思いを受け止め、活躍できる機会を創出することの必要性を強く感じた。

—人材養成事業—

<課題>

コロナ感染予防対策の徹底。

ボランティアの経験と技術を生かすための機会の創出。



保育のようす

2歳児はおもちゃで一緒に遊びます。  
乳児はみんなで見守ったり、抱っこしてあげたり。



子どもたちの修了証書を手作りする  
保育ボランティア

## 日本語会話よみかき教室ボランティア

<ねらい>

日本語会話や読み書きが困難な人たちに学習支援をする。

受講者の生活面での相談ごとに対して、サポートできるボランティアを養成する。

<状況・成果>

4/4～3/28 ボランティア 22人 受講者 42人

3館ボランティア内訳（中央公民館 7人 浜手地区公民館 3人 山手地区公民館 12人）

日本語会話よみかき教室ボランティアは中央公民館（以下、中央）、浜手地区公民館（以下、浜手）、山手地区公民館（以下、山手）の3館で活動しており、中には中央、山手の教室を掛け持ちしているボランティアもいる。

中央、浜手では午前開講のため結婚を機に来日した女性の受講者が多い。そのため主に生活に密着した日本語学習を行っている。例えば、スーパーや宅配サービスのチラシを持ち寄り情報交換したり、子どもの学校からのお知らせや手紙の読み方を教えるなどその時々で受講者が困っていることに学習内容を合わせて対応している。

山手では夜間開講のため大半が仕事で来日している技能実習生であり、主に日本語検定取得や業務に必要な日本語を教えている。そのため、ボランティアは受講者の学習の進捗状況を把握し、日々教材研究を行っている。学習だけではなく日本文化を知ってもらうため、ボランティアから遊び隊に協力依頼し折り紙体験をしてもらった。また、受講者帰国の際にはボランティアが中心となって送別会を開き、手巻き寿司の調理実習を行った。

教室以外でもボランティアは受講者と連絡を取り合い、仕事や家庭の事情などプライベートな悩みに対しても相談にのるなど、強い信頼関係を築いている。例えば、出産や仕事などの事情で教室に来るのが難しい受講者をボランティア宅に招き個別に学習を指導したり、互いの母国料理を教え合いホームパーティーを開くなど家族ぐるみの付き合いをしている受講者もいる。ボランティアは日々の活動の中で「私たちは受講者に日本語を教える役割だけでなく、海外から来て不安な思いで過ごしている受講者が少しでも安心して長く日本に滞在できるように、また受講者が日本に来て良かったと思ってもらえるようにお手伝いしている」と語っている。

ボランティアは受講者にとって日本で信頼できる家族のような存在になっている。中央では「韓国のこと知ってる？」の講座受講を機に2人、浜手では1人、山手では紹介やホームページで募集を知った3人が今年度から新たに日本語ボランティアとして加わった。

ボランティア向けの研修では、10月に大阪府教育庁と共催で「大阪府識字・日本語教室サポート出前講座」を中央で実施した。3館のボランティア6人が出席し、中級者向けの教材や災害時に必要な「やさしい日本語」について学習を深めた。中央で10月から活動を始めた人も講座に初めて参加し、今後の活動に役立てていきたいと好評だった。

<課題>

スキルアップにつながる研修の機会を設ける。



## ふれあい料理ボランティア

### <ねらい>

受講者が安心して活動できるようにボランティアのスキルアップを支援する。

交流を通して障がい者への理解を深める。

受講者が主体となる関わりを心がける。

### <状況・成果>

4/22～3/24 毎月第4金曜日 10時半～12時半 受講者 22人

ふれあい料理ボランティア 16人

昨今、ボランティアの高齢化が進み、高齢のため活動を卒業する人も増えつつあった。今年度は秋に体験講座を設け、料理ボランティアを気軽に体験し活動を理解する場を設けた。広報の効果もあり、一人が体験講座からメンバーに加わった。もう一人は、ボランティアからの誘いで活動を始め、今年は合計2人の増員となった。新しい人が加わると、全体に明るい雰囲気となり講座は活気づいている。



しかし、ボランティアの高齢化には変わりなく、各々自身の病気や家族の介護を抱えながらの活動である。そういった事情を互いに分かち合い、支え合いながらボランティア活動が行われている。

若手ボランティアは材料の買い出しを引き受けるなど、できることを率先して行っており、また別のボランティアは、障がい者とのふれあい方をもう少し学びたいと活動への意欲を示している。

現在、コロナ対策で施設を2グループに分けて少人数でおこなっている。この体制に慣れてしまったが、次年度はどうしていくのか話し合う時期にきている。以前は12月にクリスマス会を催して各施設の出し物やプレゼント交換を行っていた。ボランティアからもクイズや紙芝居を行うほかクリスマス料理を振舞うなどボランティアの腕の見せ所でもあり、受講者にとっても楽しみの場面であった。それも縮小して数年が経つ。そろそろ復活をさせるのかどうか、ボランティアの体力も伴うため話し合いの場をもたなくてはいけない。

受講者の一人ひとりがかわいいというボランティアたち。講座での関わりが受講者の生活の自立に役立っていることや、貴重な社会体験の場になっていることを施設職員から聴くことで、頑張ろうという気持ちがより高まっている。



### <課題>

ボランティアの高齢化に伴い新たな会員を増やす。

新しいボランティアとの親交を図る機会をもつ。

講座の主旨を確認しながら新年度に備える。

障がい者理解につながる学びの場をもつ。

## 第66回中央公民館まつり

<ねらい>

中央公民館と、公民館を拠点に活動する団体とが主体となって企画、運営する。  
公民館で活動する団体、グループの交流を図り、公民館活動の活性化につなげる。  
公民館活動を広く地域の人々に知ってもらう。  
コロナ禍での安全安心な開催運営の構築。

<状況・成果>

5/21 土曜日 参加者 821 人 5/22 日曜日 参加者 1778 人 参加団体 29 団体

5月21日・22日の2日間、貝塚市立中央公民館・青少年センター及びコスモシアターの館内において第66回中央公民館まつりを開催した。



コロナの影響により心配された来館者数は意外に多く、来場者・関係者を合わせると、5月21日は821人、参加団体は15団体、5月22日1778人、参加団体は14団体で、2日間で延べ2599人の参加があり、各会場で賑わいをみせ、まつり関係者は喜んだ。

まず、コロナ禍において、安全安心な開催を目指すために、昨年末から意見交換会、準備会を持った。準備会では参加団体全体で開催される第1回実行委員会の密をさけるため、TV会議方式をとり公民館視聴覚室、講座室を使用し参加者を振り分ける対策を考えた。

まつりテーマは参加団体から募集し、全体実行委員会参加者の投票により「復活・つなげていこう！公民館まつり」と決定し、3年ぶりの開催に向け本格的に動き出した。



役員会では各委員会の会議の持ち方、コロナ対策としてコスモシアターエリア・公民館エリアの2か



所に受付を設置し検温、手指消毒、コロナチェックシートの記入協力を来場者をお願いすることとした。

また、まつりのスタッフ、出演者にも事前に来場者と同じ対策を講じて感染症予防を徹底した。

絶対条件であるコロナ禍であっても安全安心な開催をする上で、コロナ禍での公民館運営で学んだ対策は無駄ではなかった。

次には来場者の動線を考えた。新庁舎及び周辺整備による進入路・駐車場・駐輪場の変更に伴い、まつり来場者への誘導にはシルバー人材センターへの委託、併せて実行委員会・参加団体の協力による動員を配置し対応した。広報に関しては各会場の入場数のコントロールも考えて通常より縮小したかたちをとった。

今回のまつりでは舞台発表はコスモシアター中ホール、展示発表は小ホール、模擬店・あそびコーナー、イートインコーナーなどは青少年センター・公民館などを利用、さらに野外舞台の代わりに青少年センター音楽室も利用した。まつり開催日にはコス



## —地域連携事業—

モスシアター市民ロビーに本部・インフォメーションを設置し、まつり役員から来場者へ各コーナー紹介、まつりのコロナ対策協力を伝えた。



各模擬店、あそびコーナーでは来場者、他の団体同士も交流を深め、舞台・演奏発表・作品展示などでは日頃の学びの成果を披露し、各会場で賑わいをみせた。

ある来場者からは「どこのイベントも中止が多く、久しぶりのイベントなので家族できました。とても楽しかったです。」と喜びの話が聞けた。

コロナ下開催であるため、来場者への配慮に重きを置いた運営であったが、そのような状況でも3年ぶりに学びの発表、地域交流が出来たことに運営スタッフ、参加団体メンバーの表情からは

まつり参加への充実感がみられた。

公民館まつりが開催され、自ら出演、出展、出店することが日々の公民館活動のエネルギーになることを再認識できた。

しかし、次回、開催時には新庁舎が完成し市役所付近の交通状況、駐車場・駐輪場規模、来庁者の動線など読めない部分が多くさらに安全なまつり開催を考えて進めなければならぬと推測される。



### <課題>

公民館利用者になぜまつりを開催するかの意味を理解してもらう。

各団体参加者への各委員会決定事項共有の徹底。

新庁舎完成に伴う会場スペースのレイアウトの構築。

次回、開催に向けた運営費工面、野外開催（模擬・野外舞台）をどうするのか。

アフターコロナも見据えた開催内容の構築。

## ロビー活用

〈ねらい〉

クラブや団体の発表の場（展示）、情報収集の場、コミュニケーションを図る場、憩の場等とし、市民がいつでも誰でも気軽に利用できるように整備する。

〈状況・成果〉

### ○居場所・コミュニケーションの場として

ロビーは活発に利用されており、昼間は主に雑談、ミーティング、休憩、昼食、クラブ前の自主練習などの場として、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の人が利用している。部屋が満室の場合は会議に使われていることもある。最近では、昼間に社会人がテキストやパソコンを開いて学習している姿が見ら

れる。夕方からは社会人に代わり中高生がやってきて本やノートを開く姿が見られた。ヘルスチェックシートの記入も定着し、学生と職員とが言葉を交わす機会も自然と多くなり、学生にとっても地域の大人と接する機会になっている。

### ○展示場所として

クラブや市民が自由に展示できる場として通路壁面やガラスケースが開放されており、多種多様な作品が年間を通じて展示されていた(上記参照)。クラブについては、市立貝塚病院への展示もあったがコロナ以降は休止となっている。

また、市内三館ある公民館の交流を目的とし他公民館のクラブと展示交流を引き続き行った。

クラブ協議会主催の障がい者福祉施設利用者作品展「にっこり展」は従来通り9月の展示に戻した。

### ○情報収集の場として

様々な情報を提供する場として、公民館主催または共催講座事業のチラシ、市の広報や市内外の各種団体からのチラシを市民が自由に手に取れるよう配架している。また、クラブ協議会のお知らせなど、周知の場としても活用されている。男女共同参画をはじめとする人権啓発コーナーが設置されており、各団体や子育てサークルの手作りのポスターなど、公民館で多くの活動紹介がなされている。

〈課題〉

ロビー展示を市民だれもが利用できることのさらなる周知。

ロビー展示が利用者や市民の人に気軽にみてもらえる工夫。

団体名(内容)	期間
月曜絵画	5/20～6/13
ろうの花	5/22～6/14
個人展示(貝塚の史跡)	6/30～7/10
夢にチャレンジ 陶芸作品	8/20～9/4
にっこり展(障害者施設展示)	9/6～9/18
ホッとワーク(ろうの花)	10月
コスモ写真クラブ	9/22～10/4
木曜書道クラブ	10/6～10/20
貝塚市美術協会展	1/14～1/29
水墨画	2/10～2/24
月曜絵画	2/27～3/13

### 2022年度 三館展示交流

中央→浜手へ 月曜絵画・ろうの花  
 中央→山手へ 人形劇あひる  
 浜手→中央へ 火曜ペン習字・いけ花クラブ  
 浜手→山手へ 光絵画  
 山手→浜手へ 水墨画



## 地域出前講座

### <ねらい>

話題提供を行い、長生会や町会の活性化を図る。

地域の人に公民館を知ってもらう機会。

### <状況・成果>

今年度は、そろそろ動き出そうという町会が増えるかと思っただが、夏に1か所の依頼があっただけであった。

・8/28 日曜日 午前10時半～11時半

場所：窪田シャルマンフジ 参加16人

協力：大阪公立大学落語研究会/成田屋大作戦・成田屋流つ津

2019年夏以来、3年ぶりの訪問となった窪田シャルマンフジ長生会。

ちらしポスターを世話人が自作しマンション内で告知するなど、訪問前から出前寄席を楽しみにしてくれていたことが伝わってくる。落語に使う高座を組み立てる、椅子を並べるなどの会場設営や荷物の搬入出など積極的に関わる長生会の世話人の方々の姿があった。会場に現れた住人たちは、顔を合わせたとたんに関わりが始まり、その光景だけで普段の近隣関係が見て取れるほど和気あいあいとしていた。

今回の出演協力は大阪公立大学落語研究会の若者2人だった。大学ではコロナ以降クラブ活動が停止し、公演依頼はめっきり少なくなったという。久しぶりの対面での舞台にいささか緊張した面持ちであったが、高座に上り1席ずつ落語を披露した。高座を下りてからは、会場からコロナ禍の学生生活のことや将来の夢、就職などの質問を受けて住民と交流を深めた。

終わる頃には住民とすっかり打ち解け、帰り際に「おもしろかった」と声をかける人や、学生に「(就職活動)がんばりや」とエールを送る姿も見られ、学生たちもホッとした様子だった。



手作りの看板がお出迎え  
窪田シャルマンフジ



### <課題>

地域に出向く機会を状況を見ながら増やしていく。

地域出前講座の周知を行い活用を増やしていく。

## 移動公民館「健康サロン」

### <ねらい>

地域の町会館（自治会館）などを利用して「健康」をキーワードに地域コミュニティの活性化と「絆」を深める機会とする。

「公民館を地域へ」の足掛かり、公民館を知ってもらう機会とする。

公民館が地域を知るきっかけとする。

### <状況・成果>

9月～3月（10回） 延べ136人

11年目を迎える「健康サロン」はコスモス市民講座のプログラムのひとつ「移動公民館～公民館があなたの町へ出かけます～」を利用した町会や団体からの依頼で実施している。

コロナも以前ほど騒がなくなったが、依然町会・団体の活動自粛は続いた。

春にいったん収まりをみせたコロナも夏前から感染拡大がはじまり、「そろそろ8月ごろから活動しようと予定しているので、会館に来てほしい。」と依頼のあった団体からも「8月から9月に延期します。」といわれ、なかなか活動開始に踏み切れないようだった。

緊急事態宣言やまん延防止措置期間などはないのだが、高齢者であること、地元のまつりなどで感染者は確実に増加していることを理由に、活動の出鼻をくじかれるような感じの1年だった。

町の役員から話を聞くと、ここ数年集まらないことがあたりまえになってきていて、「さあ、集まるぞ」とはなかなかいかないとのことである。

聞くとところによると、町内の老人会自体がなくなってしまうところもいくつか出てきた模様である。

集まることの大切さより、コロナの怖さのほうが先行しているようで、高齢者の居場所が少しずつ地域から減っていく様子が見えてくる。

公民館も受け身ではいけないと、町会連合会や老人クラブ連合会の会議で移動公民館について宣伝するも、新規申し込みには至らなかった。

「健康サロン」で訪問することが地域の活動の一役を担え、同時に公民館を知ってもらう機会になると考え、この事業を続けている。

### <課題>

地域の人たちが自分たちの活動を継続するための支援。

「地域の居場所づくり」に向けた働きかけ。

日	場所
9/9	東山 いきいきクラブ
9/11	窪田 シャルマンフジ長生会
10/13	ロコモフレンズ
10/21	津田南町会
11/13	窪田 シャルマンフジ長生会
2/4	加神さつき会
2/6	ロコモフレンズ
3/25	旭シニアクラブ
3/26	窪田 シャルマンフジ長生会



【参考】ほかでもがんばっているよ 中央公民館クラブ協議会や団体の地域での活動

No.	月日	クラブ名	会 場	備 考 (感想など)
1	5/5	遊び隊	二色の浜公園	こどもの日の為たくさんの親子連れが来てくれた。「このぼり」「皿回し」「コマ回し」を楽しんだ。
2	6/20	遊び隊	まーぶるこども園	「ブンブンゴマ」「CDゴマ」作りに挑戦してもらった。久しぶりの活動に隊員たちは嬉しそうだった。
3	7/4	月曜絵画クラブ	浜手地区公民館	浜手地区公民館で初めて観たという地域の方々から絵のコメントが寄せられ嬉しかった。
4	7/23	遊び隊	夏の子ども講座	「厚紙でだんじりを作ろう」の講座を体育館で行いたくさんの子ども達が来てくれ楽しそうだった。
5	7/24	人形劇あひる	岸和田市福祉センター	「どらゴンのともだち」、エプロンシアター、パネルシアター等、新作も含め人形劇の上演をした。
6	7/24	遊び隊	プレーパーク 夏の巻	野外広場で「かざぐるま」「スイカ割り」を子ども達と一緒に楽しんだ。
7	7/25	遊び隊	わとわ 放課後子ども教室	磁石で動かす自動車作りに挑戦した。完成後、みんなで自動車を動かして大騒ぎだった。
8	7/27	遊び隊	二色小学校 仲良しホーム	胴体付きのピカチュウを折り紙で作った。折り紙の得意な子どもが多く隊員も驚いていた。
9	8/1	遊び隊	青少年センター のびのび教室	「ストロートンボ」「タンク」「割り箸鉄砲」などの工作とマジックを披露し子ども達は大喜びだった。
10	8/7	マジッククラブ	産業文化会館	そろばん教室の表彰式の後のイベントでマジックショーを披露しリラックスして見てくれた。
11	8/10	遊び隊	東山小学校 仲良しホーム	コロナ感染症対策の為、急きょ依頼先の指導員 6 人に折り紙と定番のおもちゃの作り方を指導した。
12	8/12	遊び隊	三ヶ山学園	40 人程の子ども達と「ブンブンゴマ」「ストロートンボ」「ヨーヨー」などのおもちゃ作りをした。
13	9/11	マジッククラブ	山手地区公民館 文化協会	舞台上でマジックを披露した。出演時間が短った為、パフォーマンスが地味になり、観客も静かだった。
14	9/26	クラシックギター	貝塚市役所 3 階 視覚障害者情報プラザ	ギターアンサンブルの演奏に行った。約 20 人が来られ、後半は参加者と楽しく合奏し過ごせた。
15	10/16	遊び隊	山手地区公民館	3 年ぶりの山手地区公民館まつりで遊びコーナーを出店しまつりを盛り上げ、隊員達も楽しんだ。
16	10/24	人形劇あひる	中央公民館 赤ちゃんルーム	赤ちゃん、お母さん共に楽しんでくれ嬉しかった。人形の色や動き、音楽に興味を持ち見てくれた。
17	10/29	遊び隊	リレーフォーライフ	今年は会場に子ども達は少なくさみしかったが、「かざぐるま」作りを一緒にして楽しんだ。
18	11/3	遊び隊	北小学校祭り	コロナ禍で時間短縮や感染対策を徹底し開催できた。3 年ぶりで子ども達もたくさん来てくれた。
19	11/3	人形劇あひる	三ヶ山学園	小学校低学年から高学年まで幅広い年齢の子ども達が見てくれ、素直な反応でみんなで楽しめた。

—地域連携事業—

No.	月日	クラブ名	会 場	備 考 (感想など)
20	11/5	マジッククラブ	水間町会	高齢者が会場いっぱいに来てくれ、楽しいひと時を過ごしてもらえた。役員からも好評だった。
21	11/6	マジッククラブ	田尻町公民館	3年ぶりの公民館まつりでマジックを披露した。たくさんの町内の方々に観てもらい好評だった。
22	11/6	ろうの花	浜手地区公民館	11/6～22迄、浜手公民館のロビーに作品展示した。見て頂いた人から感想をもらい励みになった。
23	11/14	ハワイアンフラ	デイサービス庵	施設の方々に応援していただき、楽しく踊ることができた。また、施設の方々と親交も深めた。
24	11/17	人形劇あひる	みらいず子ども園	子ども達はとても素直で、劇に入りこんで声をあげたり共感してくれていて、やりがいを感じた。
25	11/26	遊び隊	プレーパーク 秋の巻	1歳児の親子連れから中学年までと幅広い年代の子ども達が遊びに来てくれ、隊員達と交流できた。
26	12/16	遊び隊	西小学校	西校区福祉委員の手伝いで西小学校1年生の授業の一環である「昔あそび」に行ってきた。
27	12/17	人形劇あひる	山手地区公民館	オカリナふぁみりあクラブとのコラボのクリスマスソングではとても楽しく盛り上がった。
28	12/18	人形劇あひる	泉南支援学校	毎年訪問しており、人形劇、パネルシアター、手ぶくろ人形、手あそびで大変盛り上がった。
29	12/26	遊び隊	中央公民館保育室 赤ちゃんルーム	遊び隊のおもちゃ紹介、「CD コマ」作りをした。隊員によるマジックショーも大変盛り上がった。
30	1/10	遊び隊	浜手地区公民館 新春あそびたいかい	今年はたくさん子ども達が参加してくれた。初めて披露した笛も大人気で、会場は賑わっていた。
31	1/15	遊び隊	貝塚ファミリー劇場 コミカル・クラウンサーカス	サーカスが始まるまでの間、子ども達が楽しめるような昔あそびを大ホール前で開催し好評だった。
32	1/19	人形劇あひる	東羽衣こども園	赤ちゃん対象に公演を行った。人形の動きや話、リズムにのった動きなど楽しそうに反応してくれた。
33	1/27	遊び隊	西幼稚園	お楽しみ会でおもちゃ作り、遊びコーナーを出店し参加した。特に「魚釣り」が人気で喜んでくれた。
34	2/2	人形劇あひる	貝塚中央こども園	子ども達が作品に入り込んでくれて、反応も大きく登場人物に共感したり応援したり大変良かった。
35	2/5	遊び隊	里山交流センター	政策推進課から依頼を受け、里山の竹を使った「和凧作り」に挑戦し、初めての凧上げを楽しんだ。
36	2/17	人形劇あひる	西幼稚園	指人形、人形劇などとても楽しそうに見てくれた。子ども達、保護者、先生方と皆、盛り上げてくれた。
37	2/26	マジッククラブ	久保町会館	いきいきサロンでマジックを披露した。その後、お客様全員にも簡単なマジックをしてもらった。
38	3/27	マジッククラブ	せんごくの里	メンバー4人でマジックを披露した。お客様と一緒に楽しむことができた。

## 中央公民館クラブ協議会

<ねらい>

クラブ協議会が文化・学習活動を通して豊かな市民文化の基盤を形成する。

クラブ協議会の円滑な運営及び変革へのサポートをおこなう。

会員の相互交流と理解を図るために事業・研修をおこなう。

<状況・成果> クラブ数 44 クラブ員数 437 人

今年度はコロナ下ではあったが、4月の定期総会から順調にクラブ協議会活動はすすめられた。

クラブ活動についても通常の活動に戻り、活気を取り戻してきている。

今年度は、3年ぶりに公民館まつりも館内開催ではあったが、無事実施することができ、協議会も開催できたことに安堵した。

また、コロナ禍でクラブの発表の場が少なかったので、公民館主催で「元気がでるミニコンサート」を企画し、公民館で活動しているクラブ・グループに依頼した。中央公民館まつりを機にクラブ員を増やしている中央公民館と山手地区公民館のウクレレクラブが出演を快く引き受けてくれ、出演者、来場者ともに楽しめたコンサートとなった。

レクリエーション部会は、再三実施計画をしていたボウリング大会を9月に開催することができた。24クラブ75人の参加で久しぶりにクラブ同士の交流とあって大いに楽しめた。参加者からは「来年もぜひボウリング大会を」という声もあった。

地域担当研修部会は、例年開催している障害者福祉施設の展示「にっこり展」を9月に開催。

また、クラブ協議会委員研修会については、パワーポイント「クラブ協議会のしくみ」を活用し、3月定例会後に新役員・新委員向けに実施し、今年度もコロナのため各クラブ1人としたため57人の参加ではあったが有意義な研修会となった。

広報部会では、協議会ニュース「泉のほとり」を今年度も2回の発行とした。発行回数を減らしたことで泉のほとりのクイズ景品数を増やすなど今回も工夫をした。

また、活動記録「どらせな」の発行もおこなった。どらせな原稿についてはクラブ紹介に加え、「公民館まつりについて」をテーマに決め、書きこんでもらうよう依頼した。

各担当職員は各部会の役員・部長に寄り添いながらアドバイスや作業を支援した。

また、今年度もクラブの活性化を図るため毎回の定例会でクラブ体験講座の企画依頼をおこない、市の広報で呼びかけ、クラブ員獲得につなげた。しかし、今年度3クラブ(熟年コース 銀の貝・体にやさしい料理・コスモスパソコン)が3月末で廃部・協議会脱退となった。

<課題>

クラブ協議会活動が円滑に進められ、協議会が活性化できるようにサポートをする。

クラブ協議会役員・委員の役割を明確化する。



## 貝塚学習グループ連絡会

<ねらい>

貝塚学習グループ連絡会（以下、連絡会）全体の活性化を図る。

各学習グループ（以下、グループ）が学んでいることをサポートする。

<状況・成果>

公民館で活動するグループが共に学び、個々のグループの学習進捗状況を報告し情報交換を行っている。ここ数年、グループの脱退が続き現在は、「あこーる」「第3土曜の会」の2グループのみで活動している。

コロナ禍やメンバーの高齢化なども影響し、昨年度から連絡会全体の活動も縮小している。また、市広報ではクラブ案内と共に連絡会についても紹介しているが、ここ数年、外への連絡会独自の発信がなく、2グループが個々の月例会の活動のみ行っていることに、この4月に2グループのメンバーが集まり、合同で話し合いの場をもった。代表を中心とし、今後の個々のグループと連絡会としての活動などについて前向きに話し合われた。現状、メンバーが感じていることや今後、連絡会をどうしていきたいのかを率直に意見を出し合い協議した。あるメンバーからは、「連絡会は残しておくべき。すぐにグループのメンバーや連絡会所属グループを増やすのは難しいかもしれないが、現在の連絡会の活動をみんなで発信していく必要があるのではないか。今は何をしている団体なのかも知られていない状況なので、わかってもらうことが大切」という意見が出た。そこで、今年度は「第3土曜の会」の提案で、まずはコスモス市民講座を使って2グループ合同で勉強会を開催することになった。この4月に合同の例会を開き、「第3土曜の会」のメンバーを中心に学習したい内容などみんなから意見を募った。その結果、日頃から各グループ共に福祉について学習する機会が多く、自分たちの将来についてきちんと理解し、知識を深めたいという意見から、今回は高齢介護課から職員2人を講師に迎え、「あなたを支える後期高齢者医療制度」をメンバー11人で学習した。講座ではメンバーが司会を務め、グループの紹介にはじまり、職員に積極的に質問する場面が見られた。講座終了後の例会ではメンバーどうして活発に意見交換が行われた。これを機に一步ずつではあるが、2グループが共に歩み寄り、前へと進み出した。また、今後は4か月に一度、各々のグループが集まって会議をし、これからの連絡会としての活動について考えていく場をもつことになった。



コスモス市民講座受講時の様子

<課題>

各グループの連携強化と活性化を図る。

各グループの宣伝・広報の工夫。

「あこーる」…1989年「公民館保育を考える会」として発足。中央公民館が現在のコスモシアターに移転する際保育室の内容について提言した。2000年から現在の名称。

「第三土曜の会」…1985年に「働く女性の会」として発足。働く環境の問題から関連して女性史、女性問題について学習してきた。20～30年も活動しているメンバーもいる。現在は介護の問題や時事的な問題をメンバー持ち回りで担当し学習している。2020年より連絡会の活動に興味を持った男性1人が加入した。

## 貝塚ファミリー劇場

<ねらい>

「本物の舞台鑑賞やこども市などの様々な行事を通じて人と繋がるスキルや自主性を育て、生きる力を身に付けることを支援し、文化豊かなまちづくりを目指す」というファミリー劇場の理念達成を支援する。

<状況・成果>

まだ続くコロナ下であっても「子どもたちの生きる力を育むことや運営に携わることで親も子とともに成長を目指す」という強い思いと団結力をもって貝塚ファミリー劇場では子ども達の感性を育む鑑賞、また「こども市」「キャンプ」などのさまざまな体験活動を行った。

特筆すべきはコスモシアター前庭において貝塚ファミリー劇場による「第34回こども市」が開催されたことだ。

本年、開催された貝塚3公民館まつりのコロナ対策を集約した新しいコロナ対策を大人が考え、そして開催内容を子どもと一緒に工夫し野外開催を行った。3年ぶりの野外開催に模擬店を運営する子どもたち・スタッフ・来場者・来場した子どもたちみんなの笑顔がみられた。



「第34回こども市」だけでなく全ての事業において大人のささやかな手助けで子どもたちは自ら考え実行していく。また人との関わりの中で、親も子も成長していく場所まさに貝塚ファミリー劇場の不変のスタイルである。

すでに3年続くコロナにより不変の理念に団体としての強さを得た一年であった。

しかし、一定、活動の成果として新規会員17人の入会があったが運営面を考慮するならば更なる新規会員の獲得は課題として残った。

※年間スケジュールは次頁にて表記

<課題>

芸術鑑賞だけにとどまらない活動の意義をいかに伝えるか。

新規会員をどのように獲得するか。



貝塚ファミリー劇場 年間スケジュール

4/24	総会 48 人中央公民館
4/26	まなびのひろば 6 人事務所
5/15	第 134 例会「唄がたり階段・日本むかしばなし〜その 2〜」95 人山手地区公民館
5/20	まなびのひろば 8 人事務所
5/22	中央公民館まつり
6/21	ファミリーひろば「子どもゆめ基金助成活動・日本の季節の行事を感じよう〜七夕まつり〜」16 人事務所
6/26	中央公民館共催「World Yo-Yo Entertainment」事前交流会と鑑賞会 150 人コスモシアター
7/3	チャレンジデイキャンプ自然の家
7/15	まなびのひろば「どんな絵本がすきですか？」8 人事務所
7/24	プレこども市 24 人山手地区公民館
8/6	チャレンジキャンプ保護者会 36 人中央公民館
8/23	ファミリーひろば「子どもゆめ基金助成活動・日本の季節の行事を感じよう〜季節の挨拶〜」 17 人事務所
9/4	第 135 例会「でべそ版ずっこけ狂言・ぼんさん・ぼんさんギンナンパー」事前交流会と鑑賞会 138 人コスモシアター
9/16	ファミリーひろば・こどもゆめ基金助成活動「日本の季節の行事を感じよう〜秋まつり〜」13 人事務所
9/23・24	親子キャンプ 27 人 ゲストハウス喜平 チャレンジキャンプ 24 人 少年自然の家
10/16	山手地区公民館まつり
10/18	まなびのひろば「こども市について語ろう」5 人事務所
10/23	浜手地区公民館まつり
10/30	こども市 223 人コスモシアター前庭
11/5	第 136 例会「だるま食堂・コントのコ」106 人泉の森ホール
11/18	ファミリーひろば「こどもゆめ基金助成活動・日本の季節の行事を感じよう〜クリスマスオーナメント作り」8 人事務所
12/11	クリスマス会 63 人山手地区公民館ホール
12/13	まなびのひろば「こども食堂」10 人事務所
1/15	貝塚市繋がり場の場づくり緊急支援事業「コミカル・クラウンサーカス」859 人コスモシアター
1/21	中高青交流会「受験生応援企画」12 人
1/22	第 136 例会「はねるマレット・うたうマリンバ」64 人山手地区公民館
2/19	中高青交流会 12 人

## 貝塚子育てネットワークの会

<ねらい>

会の円滑な運営に対しての助言。大人が育つ学習の場と環境づくりを提供。

<状況・成果>

1988年に発足して34年経つ貝塚子育てネットワークの会（以下ネット）。子育てのネットワークが全国的に消えゆく傾向の中、当事者による運営が継続されているネットに全国から注目が集まっている。今年度は、冒険遊び場協会や大学からの聞き取りや調査依頼などを受けた。しかし、運営の内情は全国同様に厳しく、各子育てサークルの会員不足による乳幼児部会の先細りがネット全体の運営に影響を及ぼす時代になってきている。

役員構成は昨年度とほぼ変わらず同じ体制で始動したが、次年度以降を見越して、秋に代表、副代表が引き継がれた。

各部会の共催講座に加え、3年ぶりに復活した公民館まつりへの参画、2023年に30周年を迎えるプレーパークの記念事業など、着手しなくてはいけない事柄があった年だった。プレーパークの30周年事業は全体の案件として取り上げられるまでに時間がかかり、12月になってようやく話し合いが始まった。

各部会の共催講座や交流会などは、委員不足と言われながらも、それぞれの部会長や委員が主体となり滞りなく進められた。終わってしまえば、やってよかったということになるのだが、これからの時代を見越して、今までのような事業の運営がどこまでできるのかが課題となってきている。

ネットの基本理念に立ち返りながら、自分たちにできる活動スタイルを構築していく必要がある。

<課題>

会全体の組織運営について議論の場を設ける。

ネットの基本理念にたちかえった学習。

### 【主な取り組み】

- ・ネット研修会・代表者会議、部長会議（毎月）・中央公民館まつり（参画）・公民館大会（参画）
- ・公民館共催講座・公民館講座事業への協力、プレーパーク・地域活動、他団体への協力など



## 乳幼児部会

今年度の部長は、年度末に第2子を出産し4月末には活動に復帰するほどパワフルである。活動も育休中の1年間に限定されるためすべてのことに対して意欲的にかかわっている。明るく、おおらかな人柄に誘われるように各サークル代表も積極的に部会を盛り上げようとしていることが伝わってくる。

前期は各サークル活動をはじめ、体験会の開催、5月には子どもの発育についての学習会も行った。

つるかめ大学からの要請もあり、高齢者との交流も行われた。子どもたちを連れて自らのサークル体験を語り、手遊びをするなど会場と一体化になる工夫が見られた。

公民館まつりには舞台参加も行き、OBも誘って総勢70人ほどの親子が舞台上がって子育てサークルの存在をアピールしていた。

サークルがさらに低年齢化し0歳児が中心となる傾向が進み、子どもに活動をさせるというより、親が仲間づくりの中で学び合うことが主となってきている。3歳の誕生日を迎えると同時に子ども園などに入所することが常識となってきた昨今、タテヨコのつながりどころかサークル運営はより厳しさを増している。その中で、入会したばかりのメンバーが会員を増やそうと奔走している。サークル運営の楽しさを短い期間の中でも感じたメンバーが次にバトンをつなごうという気概を感じる。秋になると、赤ちゃんルーム（公民館主催講座）の受講者や個々に誘った人たちがサークルに入会し一時的だがこの時期、人数は増える傾向にある。

そのような中、部会では運動会や親子講座などで楽しい時間を過ごしていた。

<課題>

サークル存続のために会員を増やす工夫。

## プログラム

- テーマ「みんなで育てる仲間の輪」サークル体験会（前期：個々のサークルで開催）
- ・「SMILE 育児」・上手な子どもの付き合い方 5/12（滝口みどりさん）
- ・教えて先輩ママ兄弟子育て 10/20
- ・運動会 11/8
- ・親子で楽しむ、絵本とわらべうた 12/1（鳥羽敦子さん）

## 園児部会

<状況・成果>

「Happy Life Smile ～私らしく～」をテーマとして活動がスタートした。

ここ2年はコロナの影響でスタート時期がずれ込み、慌ただしく講座を企画をしていた。しかし、今年はほぼコロナ前の状態に戻り、以前のように活動すればよいはずだが、メンバーの入れ替わりや2年間のブランクでコロナ前の段取りなど想像以上にわからないことが多く、職員とメンバーは過去の記録と照らし合わせながら話し合いを重ねた。会議では、昨年までとは違い、授業参観や運動会などの学校行事が行われ明るい話題もたくさん聞けた。

今年度の園児部会は、最初の会議に出た保護者の「感情的に怒ってしまい、自己嫌悪におちいる」という話に共感する人が多く、それをきっかけに、自分の心と身体のことを知り、楽しい子育てに繋がりたいと連続



## —団体支援事業—

講座を組んだ。

後期は前期の振り返りやアンケート集計などから成長と食を課題とした講座を企画し、講師から教わったことを振り返るためにレシピをもらい、自分たちで調理実習をすることにした。

講座以外にも、長い夏休みには昨年に行った蜻蛉池公園での花火、少年自然の家で自炊や川遊びなど親子で参加できるものを企画し、日頃会うことがないメンバーの子どもたちの成長をみたり、交流を楽しむ機会になった。代表、副代表も最初はぎこちない会議進行だったが、回を重ねるごとに上達し、メンバーも協力しながら会議や講座の運営を行った。

### <課題>

保護者のニーズをくみ取った講座の組み立て。

代表・副代表以外のメンバーが積極的に動き、負担を分散させるしくみ。



### プログラム

5/24 講座「自分を知らう!イライラの上手な付き合い方」

～家族みんな Happy に～ 出来麻有子(全心連上級心理カウンセラー)

6/23 講座「Happy ヨガ」 平山公子 (You yoga)

7/1 楽しくしゃべって振り返ろう・相互

10/28 講座「幼児期から始める性教育ってどんなの?」 小林美里(助産師)

11/15 講座「健康なカラダのつくり方」～偏食・食ベムラ悩んでいませんか～ 山本幸恵(管理栄養士)

11/29 講座「Lets クッキング」～講座で学んだレシピを作ってみよう～ 相互

### 小学生部会

「子育ての引出しを増やそう!」を年間テーマに掲げ活動がスタートした。

3月の会議から前期講座について話し合いを重ねてきた。小学1年生から6年生の成長期にどんなことが不安か、何を知りたいかを丁寧に話し合った。前期は、1回目に座談会形式で「学校がはじまり親子のちょっとした不安や聞きたい事」を出し合う。2回目に講師を迎えて学習をし、そこで繋がった人たちが、3回目の茶話会でより話のできる関係になり、小学生部会へ参加してくれる。という流れを作るために、チラシには1回目の座談会と2回目の講座の日程のみ載せることにした。3回目の茶話会には、1・2回目に参加している人にその講座中に直接声かけする方法をとった。

結果1人の保護者が小学生部会に入ることになった。

後期は前期講座のアンケートや座談会で話した話を拾い出し、学校や防災について学ぶ事にした。

防災の講座では「親として子どもを守り抜く」ために出来る事を受講者と同じく自身も子育て中の講師から話を聞いたり、また自分たちでも考える良い機会となった。

講座のチラシは全校配布しているが、中央小学校は学校配付のタブレット経由の電子チラシを配付してもらえた。人数は少ないが「チラシを見て参加します。」という新規受講者はいる。

講座以外でも、夏休み期間に二色の浜公園で朝活としてラジオ体操をするなど集まる機会を作って親だけでなく親子の交流を楽しむ機会も作った。



<課題>

保護者のニーズをくみ取り、受講しやすい講座の組み立て。 チラシの配布方法。

**プログラム**

- 5/26 座談会「親子の距離感って何？」
- 6/28 講座「アドラー式子育てを聞いてみよう」 天野英子(アドラー心理学勇気づけリーダー)
- 7/5 座談会「講座のふりかえりと交流」
- 10/27 講座「学校や特別支援学級について詳しく学ぼう！」 学校教育課職員
- 11/25 講座「子どもと一緒に考える小学生の防災」 非営利活動法人 およとこらいぶねっと
- 12/8 座談会「みんなの悩みこんな時どうしてる？」

**中高生部会**

「思春期をのりきる！！」を年間テーマに活動がスタートした。

中高生部会では3月から講座に向けての話し合いが行われ、5月より前期連続講座を開始した。

子どもの年齢が大きくなるにつれ、受験やSNS、クラブ活動やバイト、お金の使い方や学費についてなど、多方面で心配事や悩みが出てくる。講座で聞きたい事も多岐にわたり、中には先輩お母さんの助言で解決するものもあれば、専門的な意見を聞きたい内容もあり、企画にあたっては、どこに焦点をあてるのか、話し合いを重ねた。

高校受験や大学受験がゴールではなく、人生の通過点としてとらえるためにさまざまな講座をもった。

進路についての講座では、子どもも参加できるように日曜開催とするなど工夫をした。その結果学生3人の参加があった。その中には、広報を見て参加した不登校の学生もいて、講座後半の個別相談で真剣に話を聞く親子の姿も見られた。

一方では、昨年の夏休みに開催した「見守り STUDY」(夏休みの宿題をみまもる、わからない部分を教えたり、一緒に考える。)を今年も行った。昨年の反省点を振り返り、回数や部屋の使い方も工夫をして開催したが、宿題に重点を置き、お楽しみ(かき氷やゲームなど)をなくしたためか、またはコロナの影響か、昨年ほどの参加はなかった。

<課題>

メンバー以外の参加者を促す内容・宣伝の充実。

**プログラム**

- 5/30 座談会「みんなで話そう!!~中学校のこと、高校のこと ~」
- 7/28 講座「教えて高校受験」 貝塚市教育委員会
- 9/13 講座「思春期の子どもの心理と親の対応」  
中道泰子(臨床心理士)
- 10/23 講座「さまざまな進路選択」~親としてできること~  
水野保(進学アドバイザー)
- 11/21 座談会「みんなで話そう!思春期のアレコレ」



## プレーパーク

2022年春のプレーパーク（以下プレパ）の開催が7日間のところ5日間の開催となった。突然の日程縮小だった。その原因は担い手不足とのこと。実行委員だけで7日間を回すことはできないと言い、ネット全体に呼びかけてもなお不足しているとのことだった。

単なる日程縮小と考えるのではなく、実行委員としてプレパに対する思いや個々の実情を確認し合い、今後のプレパをどうしていくのか根幹から考える必要があると促したが1年を通してしっかりと課題に向き合う機会は得られなかった。

来年で開設30年を迎えるプレーパーク。子育て中の親が運営を担い30年も継続しているということに全国から注目が集まっている。なぜ、30年も続くのか、その秘訣はどこにあるのか。6月と7月に2団体の聞き取りがあった。（和歌山大学・ぼうけん遊び場協会）。

そこまで注目されながらも、運営事態は苦しいものがある。楽しいと思えない、仕事にでたい。時代は共働き世帯が多数を占め、自主活動を生活の中心に据えることが困難になっていることも背景としてある。冬の研修会では、講師から全てに関わるというスタイルから、できることをできる時にするという思考の転換と、相互に認め合う関係を構築していくことが提案されたが実現させるには難しい現状がある。

しかし、一方で乳幼児部会のメンバーがプレパを実家のような温かさがあると言い、子どもを育てる環境を大事にしたいと、次期委員に名乗りをあげるなど好転の兆しがみえる。

秋のプレパ後に次期体制づくりが始まった。新たなリーダーを迎え、プレパに期待を寄せる若手メンバーが加わることで、活動も実行委員も楽しいと思え、支え合える仲間づくりを目指すことが求められている。

2020年:GW 4/30、5/1 夏7/23～25 秋11/26、27 春 2023/3/26～4/1

### <課題>

プレーパークの運営、存続について話し合う。

30周年に向けての体制づくり。



## 文化団体

<ねらい>

団体の主体的な運営のもと、各々特徴が発揮されるよう支援。市民による多彩な文化活動の実現をめざす。各文化団体に公民館で活動する意義についての理解を深めてもらう。

<状況・成果>

ここ数年コロナの影響により事業の中止などが相次いだりした文化団体だったが、今年度はいずれの団体も感染対策を徹底しつつ事業を実施することができた。

クラシック音楽家協会の「クラシックコンサート」は2年続けて中止を余儀なくされていたが、今年度は無事開催することができた。「市民が気軽に文化に触れることができる機会の創出」という事業の趣旨を中央公民館とクラシック音楽家協会との間で再確認し、当日のコンサートを迎えた。



今回は「心をつなぐ音楽のひととき～明るい方へ、光の方へ」をテーマとし、心が安らぎ明るくなるような音楽を中心に構成され、オペラや声楽曲、ピアノの名曲などの演奏が披露された。会場には約200人の観客が集まり、美しい音楽を堪能していた。

貝塚市民踊連盟では数年ぶりに会長が交代し、新たに刷新した役員により早急な整備が進められている。しかし、コロナの影響による構成団体の減少に歯止めがきかず、資金不足のため、5月に開催された「第38回民踊まつり」の会場は、コスモシアター中ホールから山手地区公民館に変更されたが、滞りなく終了した。民踊連盟には新たな団体の加入があったものの、高齢化も顕著で、新たな加盟団体の獲得が早急に必要である。貝塚市日本民謡連合会との協力も模索したが上手く進んでいない。



会長をはじめとした役員はこうした状況に危機感を感じており、逆にこの危機感が役員の間で団結力強化へとつながった。公民館まつりへの参加にも意欲を見せており、今後は団体活動の場を広め、周知につながるような支援が必要である。

貝塚美術協会の「美術協会展」は今年度第55回を迎えた。その記念として、「第55回記念美術協会展」と銘打って、小ホールを会場にして、9/17(土)・9/18(日)の2日間開催した。

絵画(油絵・水彩画)49点・陶芸12点、人形2点の作品が会場内に展示され、2日目に台風の影響があったものの、約250人の来場者があって賑わった。

小作品展示は1/14(土)～1/29(日)、ロビー壁面とガラスケースで絵画(油絵・水彩画)等、44点の作品が展示された。

貝塚市美術協会では、長く中心となって運営を続けていた役員が来年度4月に交代することが決まっている。今年は次の世代に引き継ぐべく、事業運営に多くの人が関われ



## —団体支援事業—

るよう注力したが、会員の計報も相次ぎ、来年以降の役員体制と運営をどうするか、今後の舵取りが重要となっている。

貝塚市日本民謡連合会の「2022年民謡フェスティバル」は、山手地区公民館ホールから、今年はコスモシアター中ホールに会場を戻して開催することができた。当日は67曲の民謡及び民踊が披露され、関係者のみに制限していたにもかかわらず、約126人の参加があった。



しかし、前回中ホール開催時に中心となっていた役員が、今年ほとんど運営に関わらず、運営体制が刷新していたことから、準備の多くを公民館職員が負担しなければならない状況であった。構成団体の減少も顕著で、来年度の「民謡フェスティバル」は資金不足のため、再び山手地区公民館での開催が決定した。今後は役員体制の強化と新たな加盟団体の獲得が喫緊の課題である。

貝塚市合唱連盟は今年度会長が交代し、新たな会長のもとでの「合唱フェスティバル」となった。今年度も出演者の密を避ける

ため会場をコスモシアター中ホールから大ホールに変更したが、昨年規制していた一般観客は、感染対策を徹底することで入場可能とした。

今年度は特別企画として貝塚市吹奏楽団とのコラボレーションが実現した。当日は貝塚市吹奏楽団の演奏の後、各合唱団の選抜メンバーが舞台上にあがり、「世界に一つだけの花」、「翼をください」を披露した。観客席での合唱はコロナ感染対策により禁止されているため、会場にペンライトを配布し一緒に振ってもらった。舞台と会場全体が一体となった演奏は、実に見ごたえのあるものになった。



また、しばらく開催していなかった合唱講習会を大阪音楽大学 本山秀毅教授を招いて6月26日に開催した。当日は午前、午後の2回に分けて講習を行ったが、各々約100人ずつの人数が集まり、会場の貝塚市庁舎6階多目的室は多くの人の熱気に包まれた。

貝塚市軽音楽連盟の「第37回ライトミュージックコンサート」は、2/19(日)にコスモシアター小ホールで開催した。



会場の小ホールはコロナ感染予防のため入場する人数を100人に限定し、観客にはマスク着用と手指の消毒について協力を求めた。演奏者と観客の間は十分間隔を取るよう配慮したが、昨年のようにパーテーションで区切ることはしなかった。

当日はあいにくの雨だったが、演奏者も含めて約100人の参加があった。

コンサートは4組の団体が出演し、ヴォーカル付きのバンド演奏やフュージョン、スイングジャズ、ジャズヴォーカルと多彩な演奏が繰り広げられた。観客は手拍子や身体全体でリズムをとるなどして迫力のある生演奏を楽しんでいた。

各団体の活動もコロナ前の状況に戻りつつあるが、コロナ禍の影響は尾を引いており、団体の体制強化が必要である。団体運営への公民館の関わりも考える必要がある。適度な距離を保ちつつ団体の自主的な運営を支援しなければならないが、運営が弱体化している団体に対し、どのような支援が必要なのか模索が続いている。

<課題>

各団体との連携を深めながら、協力して各団体の課題について検討し、解決法を考えていく。

団体名	事業	日時	場所	参加者
貝塚市民踊連盟	第37回民踊まつり	5/8 (日)	山手地区 公民館ホール	100
貝塚市クラシック音楽家協会	クラシックコンサート「心をつなぐ音楽のひととき～明るい方へ 光の方へ」	5/15 (日)	中ホール	200
貝塚美術協会	第55回美術協会展	9/17 (土) ～9/18 (日)	小ホール	250
	小作品展	1/14 (土) ～1/29 (日)	ロビー	—
貝塚市 日本民謡連合会	2022 民謡フェスティバル	11/13 (日)	中ホール	126
貝塚市合唱連盟	第45回貝塚市合唱フェスティバル	12/11 (日)	大ホール	392
貝塚市軽音楽連盟	第37回ライトミュージックコンサート	2/19 (日)	小ホール	100